

資料

系列別主要劇場

劇場名	席数	仕様	劇場名	席数	仕様
伝統演劇系列					
国立劇場(大)	1,616	【大】	PARCO劇場	636	【中】
国立劇場(小)	526	【中】	天王洲銀河劇場	746	【中】
国立文楽劇場	731～751	【中】	東京グローブ座	595～713	【中】
国立能楽堂	627	【中】	スペース・ゼロ	575	【中】
国立劇場おきなわ	578～632	【中】	シアター・ドラマシティ	898	【中】
歌舞伎座	1,808	【大】	現代演劇系列Ⅲ		
大劇場演劇系列			紀伊國屋ホール	416	【小】
新橋演舞場	1,428	【大】	紀伊國屋サザンシアター	468	【小】
明治座	1,368	【大】	博品館劇場	381	【小】
御園座	1,299	【大】	俳優座劇場	300	【小】
京都南座	1,082	【大】	両国シアターX	172～300	【小】
大阪松竹座	1,090	【大】	本多劇場	386	【小】
大阪新歌舞伎座	1,453～1,529	【大】	ザ・スズナリ	200	【小】
梅田芸術劇場 メインホール	1,905	【大】	下北沢駅前劇場	200	【小】
博多座	1,392～1,474	【大】	OFF・OFFシアター	100	【小】
現代演劇系列Ⅰ(国公立系)			下北沢「劇」小劇場	130	【小】
新国立劇場(中)	1,010～1,038	【大】	シアター・モリエール	186	【小】
新国立劇場(小)	416～468	【小】	シアター・サンモール	294	【小】
東京芸術劇場 プレイハウス	834	【中】	こまばアゴラ劇場	60～130	【小】
東京芸術劇場 シアターイースト	286	【小】	ミュージカル演劇系列		
東京芸術劇場 シアターウエスト	259	【小】	TBS赤坂ACTシアター	1,324	【大】
東京建物Brillia HALL	1,300	【大】	日生劇場	1,330	【大】
世田谷パブリックシアター	600	【中】	帝国劇場	1,826	【大】
シアタートラム	240	【小】	宝塚大劇場	2,550	【大】
彩の国さいたま芸術劇場(大)	776	【中】	東京宝塚劇場	2,069	【大】
彩の国さいたま芸術劇場(小)	346	【小】	宝塚バウホール	500	【中】
ピッコロシアター(大)	396	【小】	四季劇場「春」	1,255	【大】
兵庫県立芸術文化センター(中)	800	【中】	四季劇場「秋」	907	【大】
あうるすぽっと	301	【小】	電通四季劇場「海」	1,216	【大】
座・高円寺1	238	【小】	四季劇場「夏」	1,200	【大】
座・高円寺2	256～298	【小】	自由劇場	500	【中】
神奈川芸術劇場 ホール	1,300	【大】	大阪四季劇場	1,119	【大】
現代演劇系列Ⅱ			キャナルシティ劇場	1,144	【大】
シアタークリエ	611	【中】	名古屋四季劇場	約1,200	【大】
三越劇場	543	【中】	北海道四季劇場	994	【大】
サンシャイン劇場	832	【中】			
シアターコクーン	747	【中】			

上の内、大劇場は900席以上、中劇場は899～500席、小劇場は499席以下という基準で規定した。各流能楽堂、新国立劇場(大)、東京芸術劇場(大)、オーチャードホール、日本青年館は除いた。

※(公社)日本演劇興行協会所属劇場：歌舞伎座 新橋演舞場 明治座 御園座 南座 松竹座

新歌舞伎座 梅田芸術劇場 博多座 シアタークリエ サンシャイン劇場 帝国劇場

※中劇場協議会所属劇場：三越劇場 サンシャイン劇場 シアターコクーン 天王洲銀河劇場

紀伊國屋ホール 紀伊國屋サザンシアター 博品館劇場 俳優座劇場 両国シアターX

本多劇場 シアターサンモール

2020年松竹株式会社主催公演

会場・劇場	上演作品	公演期間	公演回数
歌舞伎座	「壽初春大歌舞伎」	1/ 2～ 1/26	50
歌舞伎座	「二月大歌舞伎」	2/ 2～ 2/26	50
歌舞伎座	「八月花形歌舞伎」	8/ 1～ 8/26	96
歌舞伎座	「九月大歌舞伎」	9/ 1～ 9/26	96
歌舞伎座	「十月大歌舞伎」	10/ 2～10/27	96
歌舞伎座	「吉例顔見世大歌舞伎」	11/ 1～11/26	96
歌舞伎座	「十二月大歌舞伎」	12/ 1～12/26	96
新橋演舞場	「初春歌舞伎公演」	1/ 3～ 1/25	41
新橋演舞場	松竹新喜劇二月特別公演「大阪の家族はつらいよ／駕籠や捕物帳」	2/ 1～ 2/11	20
新橋演舞場	新派特別公演「八つ墓村」	2/16～ 2/28	21
新橋演舞場	「滝沢歌舞伎ZERO 2020 The Movie特別上映」	10/ 4～10/ 7	10
新橋演舞場	「虎者 NINJAPAN 2020」	10/10～10/27	28
新橋演舞場	「女の一生」	11/ 2～11/26	33
新橋演舞場	新派朗読劇場「鶴八鶴次郎・春色浅草」	12/12	1
新橋演舞場	新派朗読劇場「遊女夕霧・七つの顔の銀次」	12/12	1
新橋演舞場	新派朗読劇場「女の決闘」	12/13	1
新橋演舞場	新派朗読劇場「夜叉ヶ池」	12/19	1
大阪松竹座	「壽初春大歌舞伎」	1/ 3～ 1/27	50
大阪松竹座	桂米朝五年祭 喜劇「なにわ夫婦八景 米朝・網子とおもろい弟子たち」	2/ 1～ 2/16	26
大阪松竹座	「笑福亭銀瓶 嘶の会」	2/22	1
大阪松竹座	「紅ゆずるトークショー」	10/10	2
大阪松竹座	「GOEMON抄 プレミアムトーク」	10/15～10/18	7
大阪松竹座	「OSKだよ全員集合！」	11/14	3
京都南座	初笑い・松竹新喜劇 新春お年玉公演「一姫二太郎三かぼちゃ／駕籠や捕物帳」	1/ 1～ 1/ 8	15
京都南座	「舟木一夫シアターコンサート 2020 in 南座」	2/ 7～ 2/ 9	4
京都南座	「市川海老蔵特別公演」	2/14～ 2/23	15
京都南座	「滝沢歌舞伎ZERO 2020 The Movie特別上映」	10/23～11/ 1	27
京都南座	京の年中行事 當る丑歳「吉例顔見世興行 東西合同大歌舞伎」	12/ 5～12/19	42
浅草公会堂	「新春浅草歌舞伎」	1/ 2～ 1/26	49
三越劇場	初春新派公演「明日の幸福／神田祭」	1/ 2～ 1/20	30

※中止公演は除く

2020年東宝株式会社主催公演

会場・劇場	上演作品	公演期間	公演回数
帝国劇場	ジャニーズ・アイランド	1/ 1～ 1/27	39
帝国劇場	Endless SHOCK	2/ 4～ 2/26	29
帝国劇場	ジャージーボーイズインコンサート	7/18～ 8/ 5	13
帝国劇場	The Musical Concert at Imperial Theatre	8/14～ 8/25	16
帝国劇場	VOICARION IX 信長の犬	9/ 5～ 9/13	14
帝国劇場	My story	9/17～ 9/18	4
帝国劇場	僕らこそミュージック	9/23	1
帝国劇場	ローマの休日	10/ 4～10/28	34
帝国劇場	ビューティフル	11/ 5～11/28	31
帝国劇場	DREAM BOYS	12/10～12/27	20
シアタークリエ	シャボン玉とんだ 宇宙(ソラ)までとんだ	1/ 7～ 2/ 2	35
シアタークリエ	グッド・バイ	2/ 4～ 2/16	16
シアタークリエ	VOICARION VII	2/20～ 2/27	10
シアタークリエ	リトル・ショップ・オブ・ホラーズ	3/13～ 4/ 1	12
シアタークリエ	SHOW-ISMS	7/20～ 8/ 4	13
シアタークリエ	メイビー、ハッピーエンディング	8/11～ 8/30	26
シアタークリエ	ダディ・ロング・レッグズ	9/ 4～ 9/10	10
シアタークリエ	Gang Showman	9/18～10/ 3	21
シアタークリエ	おかしな二人	10/ 8～10/25	24
シアタークリエ	RENT	11/ 2～11/16	18
シアタークリエ	オトコ・フタリ	12/12～12/30	25
日生劇場	フランケンシュタイン	1/ 8～ 1/20	31
日生劇場	天保十二年のシェイクスピア	2/ 8～ 2/27	26
日生劇場	ホイッスル・ダウン・ザ・ウィンド	3/ 7～ 3/29	11
東急シアターオーブ	プロデューサーズ	11/ 9～12/ 6	38
日本青年館	オレたち応援屋!! On Stage	10/ 3～10/28	33
明治座	両国花錦闘士	12/ 5～12/23	24
かめありリリオホール	グッド・バイ	1/11～ 1/13	4

※中止公演は除く

2020年宝塚歌劇団主催公演

会場・劇場	組	上演作品	公演期間	公演回数 ※
宝塚大劇場	雪組	『ONCE UPON A TIME IN AMERICA』	1/ 1～ 2/ 3	47
宝塚大劇場	星組	『眩耀(げんよう)の谷 ～舞い降りた新星～』『Ray 一星の光線-』	2/ 7～ 3/ 9	31
宝塚大劇場	花組	『はいからさんが通る』	7/17～ 9/ 5	20
宝塚大劇場	雪組	『NOW! ZOOM ME!!』	9/11～ 9/19	13
宝塚大劇場	月組	『WELCOME TO TAKARAZUKA -雪と月と花と-』『ピガール狂騒曲』	9/25～11/ 1	52
宝塚大劇場	宙組	『アナスタシア』	11/ 7～12/14	52
東京宝塚劇場	宙組	『El Japón -イスペインアのサムライ-』『アクアヴィーテ!!』	1/ 3～ 2/16	64
東京宝塚劇場	雪組	『ONCE UPON A TIME IN AMERICA』	2/21～ 3/22	16
東京宝塚劇場	星組	『眩耀(げんよう)の谷 ～舞い降りた新星～』『Ray 一星の光線-』	7/31～ 9/20	51
宝塚大劇場	雪組	『NOW! ZOOM ME!!』	9/26～10/ 3	12
東京宝塚劇場	花組	『はいからさんが通る』	10/ 9～11/15	52
東京宝塚劇場	月組	『WELCOME TO TAKARAZUKA -雪と月と花と-』『ピガール狂騒曲』	11/20～ 1/ 3	54/58
宝塚バウホール	輯・謡	『パッション・ダムール -愛の夢-』	10/12～10/25	20
梅田芸術劇場メインホール	雪組	『炎のボレロ』『Music Revolution! -New Spirit-』	8/29～ 9/ 6	13
梅田芸術劇場メインホール	宙組	『FLYING SAPA -フライング サパー-』	8/ 1～ 8/11	16
梅田芸術劇場メインホール	星組	『エル・アルコン-鷹-』『Ray 一星の光線-』	11/20～11/28	13
梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ	花組	『マスカレード・ホテル』	1/ 5～ 1/13	14
梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ	月組	『出島小宇宙戦争』	2/ 8～ 2/16	14
梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ	宙組	『壮麗帝』	8/14～ 8/18	8
梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ	星組	『シラノ・ド・ベルジュラック』	12/ 4～12/12	14
東京国際フォーラム	花組	『DANCE OLYMPIA』	1/ 7～ 1/22	21
日本青年館ホール	花組	『マスカレード・ホテル』	1/20～ 1/27	12
東京建物Brillia HALL	月組	『出島小宇宙戦争』	2/24～ 3/ 1	7
日生劇場	宙組	『FLYING SAPA -フライング サパー-』	9/ 6～ 9/15	15
御園座	月組	『赤と黒』	2/10～ 3/ 4	27

※公演回数 2020年公演回数/公演期間中の総回数

※中止公演は除く

2020年劇団四季上演記録

	上演作品	会場	公演期間	公演回数 <small>(20年開演:20年12月31日までの総回数)</small>
東京	『オペラ座の怪人』	JR東日本四季劇場[秋]	20/10/24～ロングラン上演	64
	『ロボット・イン・ザ・ガーデン』	自由劇場	20/10/ 3～20/11/27	49
	『アラジン』	電通四季劇場[海]	15/ 5/24～ロングラン上演	196/1712
	『ライオンキング』	四季劇場[夏]	17/ 7/16～ロングラン上演	214/1033
	『キャッツ』	キャッツ・シアター	18/ 8/11～ロングラン上演	213/678
	『マンマ・ミーア!』	KAAT神奈川芸術劇場	20/ 7/14～20/ 8/23	38
	小計			774
大阪	『リトルマーメイド』	大阪四季劇場	18/10/13～ロングラン上演	211/614
	小計			211
京都	『ノートルダムの鐘』	京都劇場	19/ 7/28～20/ 1/19	18/163
	『バリのアメリカ人』	京都劇場	20/ 2/22～20/ 3/28	8
	小計			26
名古屋	『バリのアメリカ人』	名古屋四季劇場	19/ 9/ 1～20/ 1/ 5	6/117
	『ライオンキング』	名古屋四季劇場	20/ 3/26～ロングラン上演	163
	小計			169
札幌	『リトルマーメイド』	北海道四季劇場	18/12/22～20/ 2/26	50/386
	小計			50
福岡	『ライオンキング』	チャンネルシティ劇場	19/ 3/24～20/ 1/13	13/275
	『ノートルダムの鐘』	チャンネルシティ劇場	20/ 2/17～20/ 4/ 1	17
	『マンマ・ミーア!』	チャンネルシティ劇場	20/10/ 1～21/ 1/ 3	86/89
	小計			116
全国	『コーラスライン』	39都市	20/ 9/19～全国ツアー公演	62
	『カモメに飛ぶことを教えた猫』こころの劇場	19都市／通算67都市	19/ 4/23～20/ 2/27	39/243
	『カモメに飛ぶことを教えた猫』全国公演	8都市／通算36都市	19/ 4/20～20/ 2/24	9/43
	『はだかの王様』こころの劇場	15都市／通算80都市	19/ 5/ 7～20/ 2/25	36/159
	『はだかの王様』全国公演	3都市／通算27都市	19/ 5/ 4～20/ 2/ 9	3/31
	小計			149
総合計				1495回

※貸切含む。
※中止公演は除く。

令和2年 演劇賞 関係各賞受賞者

※各章・各賞の演劇関係者のみ記載、順不同・敬称略
※令和2年(2020年)3月中旬～令和3年(2021年)2月初旬発表

【令和2年度 文化勲章】

橋田壽賀子(脚本家)

【令和2年度 文化功労者】

木村大作(撮影技師・映画監督)、今野勉(テレビ演出家)、三枝成章(作曲家)、酒井政利(音楽プロデューサー)、すぎやまこういち(作曲家)、鶴澤清治(人形浄瑠璃文楽三味線演奏家)、福王茂一郎(能楽師ワキ方・福王流)

【令和2年 春の叙勲・褒章】

- ◇旭日小綬章＝三橋貴風(尺八演奏家)
- ◇旭日双光章＝粟谷能夫(能楽師シテ方喜多流)、川島英治(福井県能楽協会会長)、清元延秀佳(清元節三味線演奏家)、久高将吉(琉球歌劇・沖繩芝居俳優)、橋本圭祐(邦楽器系製作技術者)、藤間富士齋(熊本日本舞踊協会理事長)
- ◇黄綬褒章＝高池克明(歌舞伎衣裳着付技術者)
- ◇紫綬褒章＝鶴澤清介(人形浄瑠璃文楽三味線演奏家)、藤山直美(俳優)、山村友五郎(日本舞踊家)

【令和2年 秋の叙勲・褒章】

- ◇旭日中授章＝友枝昭世(能楽師)
- ◇旭日小綬章＝麻実れい(俳優)、館ひろし(俳優)、北方謙三(小説家)
- ◇黄綬褒章＝宮岡哲也(歌舞伎小道具製作技術者)
- ◇紫綬褒章＝井上由美子(脚本家)、鶴山仁(演出家)、善養寺恵介(尺八演奏家)、高橋留美子(漫画家)、多和田葉子(小説家)、中井貴一(俳優)、藤間蘭黄(日本舞踊家)、吉田玉男(人形浄瑠璃文楽人形遣い)

【第32回高松宮殿下記念世界文化賞】

※新型コロナウイルスの影響により本年は実施せず

【令和2年度 第75回文化庁芸術祭賞】

～演劇部門～

- ◇大賞＝該当なし
- ◇優秀賞＝名取事務所(「少年Bが住む家」の成果)、文学座(「五十四の瞳」の成果)、宝塚歌劇団月組(「WELCOME TO TAKARAZUKA 一雪と月と花と」)、「ピガール狂騒曲」の成果、瓦照苑(苑の会 ちかの会 大阪公演「蟬丸 替之型 琵琶之会釈」の成果)
- ◇新人賞＝高野菜々(音楽座ミュージカル「SUNDAY(サ

ンデイ)」における演技)、原田諒(宝塚歌劇月組公演「ピガール狂騒曲」の脚本・演出)

～テレビ・ドラマ部門～

- ◇大賞＝日本放送協会(スペシャルドラマ「ストレンジャー～上海の芥川龍之介～」)
- ◇優秀賞＝CBCテレビ(「スナイパー 時村正義の働き方改革」)、関西テレビ放送(U-NEXT presents 「あと3回、君に会える」)、日本放送協会(「完本 怪談牡丹灯籠」)

【令和2年度 文化庁長官表彰】

石井昭(歌舞伎小道具方)、いしだあゆみ(歌手・俳優)、鶴澤清友(人形浄瑠璃文楽三味線演奏家)、玉城秀子(琉球舞踊家)、小野隆浩(滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール音響デザイナー)、金田栄一(歌舞伎座舞台株式会社顧問、齋藤譲一(一般社団法人日本劇場技術者連盟理事長)、大石静(脚本家)、知花清秀(組踊歌三線演奏家)、寺田義雄(全国舞台テレビ照明事業協同組合理事長)、中谷明(能楽師・笛方守田流)、中村美津子(歌手)、小林幸子(歌手)、松本錦吾(歌舞伎俳優)、千葉真一(俳優・アクション監督)、松岡和子(翻訳家・演劇評論家)、山根宏章(人形劇団ポポロ代表)、松永忠五郎(長唄三味線演奏家)

【第76回(令和元年度)恩賜賞・日本芸術院賞】

第三部(音楽・演劇・舞踊)

- ◇恩賜賞・日本芸術院賞＝柗屋勝国(長唄)
- ◇日本芸術院賞＝藤間蘭黄(舞踊)、松本幸四郎(歌舞伎)

【第39回(令和元年度)国立劇場文楽賞】

- ◇文楽優秀賞＝竹本鑑太夫、竹澤宗助、吉田玉男
- ◇文楽奨励賞＝豊竹希太夫、鶴澤清尙、吉田玉佳
- ◇文楽特別賞＝豊竹咲太夫
- ◇文楽大賞＝該当者なし

【令和元年度 文楽協会賞】

豊竹靖太夫(太夫の部)、鶴澤燕二郎(三味線の部)、吉田玉路(人形の部)

【第49回大谷竹次郎賞】

該当作品なし

【第42回松尾芸能賞】

- ◇優秀賞＝小佐田定雄(落語・劇作家)、花總まり(演

劇)、藤田俊太郎(演劇)

◇**新人賞**＝中村米吉(演劇)

◇**特別賞**＝結城孫三郎(演劇[人形])

【第45回菊田一夫演劇賞】

◇**演劇大賞**＝堂本光一(20年にわたり「SHOCK」シリーズを牽引してきた功績に対して)

◇**演劇賞**＝岡本健一(「海辺のカフカ」大島の役、「終夜」ヨンの役の演技に対して)、川平慈英(「ビッグ・フィッシュ」エドワード・ブルームの役の演技に対して)、高橋一生(「天保十二年のシェイクスピア」佐渡の三世次の役の演技に対して)、朝夏まなと(「リトル・ウィメン～若草物語～」ジョーの役、「天使にラブ・ソングを～シスター・アクト～」デロリスの役の演技に対して)

◇**特別賞**＝酒井澄夫(永年の宝塚歌劇における作・演出の功績に対して)

【第55回紀伊國屋演劇賞】

◇**団体賞**＝該当団体なし

◇**個人賞**＝中村ノブアキ(JACROW公演「闇の將軍」シリーズ第3弾の脚本・演出に対して)、岡本健一(新国立劇場公演「リチャード二世」における 王リチャード二世の演技に対して)、眞鍋卓嗣(劇団俳優座公演「雉はじめて鳴く」、名取事務所公演「少年Bが住む家」の演出に対して)、松岡依都美(こまつ座公演「きらめく星座」における その妻 ふじ、文学座公演「五十四の瞳」における 康 春花の演技に対して)、鈴木杏(世田谷パブリックシアター公演「殺意 ストリップショウ」における 緑川美沙、東京芸術劇場公演「真夏の夜の夢」における そぼろの演技に対して)

【第28回読売演劇大賞】

◇**大賞・最優秀女優賞**＝鈴木杏(「殺意 ストリップショウ」「真夏の夜の夢」の演技)

◇**最優秀男優賞**＝山崎一(「十二人の怒れる男」「23階の笑い」の演技)

◇**最優秀作品賞**＝「リチャード二世」新国立劇場

◇**最優秀演出家賞**＝藤田俊太郎(「天保十二年のシェイクスピア」「NINE」「VIOLET」の演出)

◇**最優秀スタッフ賞**＝齋藤茂男(「アントゥロ・ウイの興隆」「現代能楽集X『幸福論』～能『道成寺』『隅田川』より」の照明)

◇**杉村春子賞**＝小瀧望(「エレファント・マン」の演技)

◇**芸術栄誉賞**＝緒方規矩子(衣装デザイナー)

◇**選考委員特別賞**＝「現代能楽集X『幸福論』～能『道成寺』『隅田川』より」

【毎日芸術賞】

鶴山仁(「リチャード二世」の演出、同作をもってシェイクスピア歴史劇シリーズ完結に対して)

【第71回(令和元年度)日本放送協会放送文化賞】

中村吉右衛門(歌舞伎俳優)

【観世寿夫記念法政大学能楽賞】

◇**第42回能楽賞**＝該当者なし

◇**第30回催花賞**＝一噌庸二(笛方一噌流)

【第40回伝統文化ボーラ賞】

◇**優秀賞**＝十二世山階彌右衛門(能楽の伝承・振興)

◇**奨励賞**＝杵屋利光(長唄の伝承・振興)

【第21回テアトロ演劇賞】

◇**正賞**＝杉山剛志(「ワーニャ伯父さん」の成果にたいして)

◇**特別賞**＝栗原小巻(「愛の賛歌～ピアフ」「松井須磨子」の成果に対して)

◇**功労賞**＝坂本長利(「土佐源氏」の成果に対して)

【第8回ハヤカワ「悲劇喜劇」賞】

※新型コロナウイルスの影響により選考中止

【WOWOW勝手に演劇大賞2020】

※1月22日現在、未定

【CoRich舞台芸術アワード！2020】

◇**第1位**＝劇団俳優座「雉はじめて鳴く」

◇**第2位**＝TRASHMASTERS「対岸の絢爛」

◇**第3位**＝feblaboプロデュース「十二人の怒れる男—Twelve Angry Men—」

【第72回読売文学賞】

◇**戯曲・シナリオ賞**＝岡田利規「未練の幽霊と怪物挫波 / 敦賀」(白水社)

【第28回橋田賞】

◇**橋田賞**＝山本むつみ(脚本家)、松重豊(俳優)、岡田准一(俳優)、橋爪功(俳優)

◇**橋田新人賞**＝田中圭(俳優)、広瀬すず(俳優)

【第12回伊丹十三賞】

宮藤官九郎(大河ドラマ「いだてん」のチャレンジングな脚本に対して)

【第9回中島勝祐創作賞】

「桜花三章」(野村祐子作曲)、「寿猫」(新内多賀太夫作曲)

【「日本の劇」戯曲賞2020】

◇**最優秀賞**＝該当なし

◇**佳作**＝「世界が私を嫌っても」有吉朝子

【第26回劇作家協会新人戯曲賞】

「いびしない愛」竹田モモコ

【第32回テアトロ新人戯曲賞】

「東京2012～のぞまればさざかれずあるもの～」大西弘記

【第24回鶴屋南北戯曲賞】

※新型コロナウイルスの影響により選考中止

【第27回OMS戯曲賞】

◇大賞＝「セミの空の空」山本正典(コトリ会議)

◇佳作＝「カンザキ」ピンク地底人3号(ももちの世界／ピンク地底人)

【第20回AAF戯曲賞】

◇大賞＝「リンチ(戯曲)」羽鳥ヨダ嘉郎

◇特別賞＝「It's not a bad thing that people around the world fall into a crevasse.」モスクワカヌ

【令和2年度 希望の大地の戯曲賞「北海道戯曲賞」】

◇大賞＝該当なし

◇優秀賞＝「夕映えの職分」南出謙吾

【第13回小田島雄志・翻訳戯曲賞】

沈池娟(李ボラム作「少年Bが住む家」の翻訳)、東京・世田谷パブリックシアター(「メアリー・スチュアート」の上演、作＝フリードリヒ・シラー、上演台本＝ステイブン・スペンダー、翻訳＝安西徹雄、演出＝森新太郎)

◇特別賞＝東京・新国立劇場「シェイクスピア歴史劇」シリーズ

【若手演出家コンクール2019】

◇最優秀賞＝深谷晃成(第27班presents「フカタニキカク」『ゴーストノート』)

【第26回ニッセイ・バックステージ賞】

杉理一(オペラ制作・字幕監修)、田中義彦(特殊小道具製作)

【第39回2019年度日本照明家協会賞】

～舞台部門～

◇文部科学大臣賞・大賞＝森規幸(公益財団法人神奈川県芸術舞踊協会主催「ねむり姫」～眠りの森の美女・未来版～)

◇優秀賞＝上村範康(北海道ダンスプロジェクト 札幌文化芸術劇場hitaru主催 HDP DANCE PREMIUM2019)、桜井真澄(俳優座劇場主催 音楽劇「母さん」)、徳田芳美(地主薫パレエ団公演「人魚姫」)、日高仁志(神崎パレエスタジオリサイタル「くるみ割り人形(全幕)」)

◇新人賞＝加藤祥子(劇都仙台ミュージカルシアター「おかえり、ケヤキ食堂」)、齋藤浩一郎(アトリエ5-25-6 Produce vol.1「あの星にとどかない」)、齋藤潤(THE RAMPAGE LIVE TOUR 2019 “THROW YA FIST”)、中尾貴博(アワーズホール・明石市立市民会館主催 市民創作オペラ「イワイさまおじゃったか」)、岩田知晃(岡山市／岡山市スポーツ・文化振興財団主催「悲哀のブルー sorrow of blue ～夢二晩年の想い～」)、白土真也(鹿屋市教育委員会主催 高校生ミュージカル「ヒミとヒコ」)

◇選考委員特別賞＝平野茂(松竹「本朝白雪姫譚話」)

◇特別賞＝赤司晴彦(CHIKUGO DANCE PROGRAM「うつろう」)

◇奨励賞＝増子顕一(劇団俳小主催「リタ・ジョーのよろこび」)、遠矢ひろ子(感覚ビエロ 5-6th anniversary「LIVE-RATION 2019 FINAL」～幕張ヴァージンはあなたのもの～)、古覚川博(極上ナゴヤカブキ「青天大戦」)、福井孝子(なごや芝居の広場主催「ゼロの焦点」)、原中治美(藤原歌劇団「LA TRAVIATA椿姫」)、久松裕明(和太鼓松村組神戸公演20周年記念コンサート「月華」)、原田亮(「DRUM TAO ザ・ドラマーズ FAINAL」)

◇努力賞＝藤原亮(こどもエンゲキ体験・はじめの一步！冬組～ウソが本当で、本当がウソで～)、高橋研(プロジェクト「虹」第2回公演「べっかんこ鬼」)、山崎純子(鹿角市／鹿角市教育委員会主催 ミニ・ミュージカル「ルウラ・リ～未来に向かって～」)、品治尚貴(第3回日本舞踊未来座 彩 SAI)、福宮康弘(MAKIHARA NORIYUKI concert Tour 2019 “Design&Reason”)、藤原康弘(地点「三人姉妹」)

◇スタッフ賞＝梅崎麻友、高橋力、市川直

【第25回AICT演劇評論賞】

渡辺保(著作「演出家鈴木忠志 その思想と作品」岩波書店)

【東京ドラマアウォード】

～連続ドラマ部門～

◇グランプリ＝「いだてん～東京オリムピック噺～」(作＝宮藤官九郎 キャスト＝中村勘九郎、阿部サダヲ、綾瀬はるか、生田斗真、森山未来、大竹しのぶ、役所広司ほか)

【第37回浅草芸能大賞】

◇大賞＝天海祐希(俳優)

◇特別功労賞＝志村けん(コメディアン・俳優)

◇「スターの手形」被顕彰者＝片岡秀太郎(歌舞伎俳優)、倍賞美津子(俳優・歌手)

【第36回京都賞】

※新型コロナウイルスの影響により本年は実施せず

【令和2年度 京都市芸術新人賞・京都市芸術振興賞】

◇京都市芸術新人賞＝木ノ下裕一(演劇<監修・補綴>)

◇京都市芸術振興賞＝喜志哲雄(学術<演劇評論>)

【令和元年度 大阪文化祭賞】

◇大阪文化祭賞・第一部門(伝統芸能・邦舞・邦楽)＝
「仮名手本忠臣蔵 九段目 山科閑居の段」出演者一同
(「11月文楽公演」の成果)

◇大阪文化祭賞・第二部門(現代演劇・大衆芸能)＝南河
内万歳一座(「～21世紀様行～唇に聴いてみる」の舞台成
果)

◇大阪文化祭 奨励賞・第一部門＝山村若、山村侃(新
進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会「竹生島」の成果)

【令和2年度 大阪府・憲法記念日知事表彰】

鈴木健之亮(演出家)、鶴澤清友(人形浄瑠璃音楽・三味
線)、藤田千代美(俳優)

【令和2年度 咲くやこの花賞】

◇演劇・舞踊部門＝笠井友仁(演出、エイテム
ピー・シアターカンパニー)

【第55回大阪市市民表彰】

◇文化功労＝井上恵美子(俳優、松竹新喜劇)、内山美
樹子(人形浄瑠璃研究者)、山村友五郎(日本舞踊家)

【全米図書賞 National Book Awards】

◇翻訳文学部門＝柳美里「JR上野駅公園口」

【2019 - 2020第74回トニー賞】

※2020年10月15日発表のノミネートのみ記載。新型
コロナウイルスの影響により授賞式開催は2021年2月
現在未定

～演劇部門～

◇作品賞＝『Grand Horizons』(作：ベス・ウォール)、
『The Inheritance』(作：マシュー・ロベス)、『Sea Wall
/ A Life』(作：サイモン・ステイヴンス、ニック・ペイ
ン)、『Slave Play』(作：ジェレミー・O・ハリス)、『The
Sound Inside』(作：アダム・ラップ)

◇リバイバル賞＝『Betrayal』(作：ハロルド・ピン
ター)、『Frankie and Johnny in the Clair de Lune』
(作：テレンス・マクナリー)、『A Soldier's Play』(作：
チャールズ・フラー)

◇主演男優賞＝イアン・バーフォード(『Linda Vista』)、
アンドリュウ・ブルナップ(『The Inheritance』)、ジェ
イク・ギレンホール(『Sea Wall / A Life』)、トム・ヒド
ルストン(『Betrayal』)、トム・スターリッジ(『Sea Wall
/ A Life』)、ブレア・アンダーウッド(『A Soldier's
Play』)

◇主演女優賞＝ジャッキーナ・カラカゴ(『Slave Play』)、

ローラ・リニー(『My Name is Lucy Barton』)、オード
ラ・マクドナルド(『Frankie and Johnny in the Clair de
Lune』)、メアリー＝ルイーザ・パーカー (『The Sound
Inside』)

◇助演男優賞＝アト・ブランクソン＝ウッド(『Slave
Play』)、ジェイムズ・クサティ＝モイヤー(『Slave
Play』)、デヴィッド・アラン・グリア(『A Soldier's
Play』)、ジョン・ベンジャミン・ヒッキー(『The Inheri
tance』)、ポール・ヒルトン(『The Inheritance』)

◇助演女優賞＝ジェーン・アレクサンダー(『Grand
Horizons』)、シャリア・ラ・トゥール(『Slave Play』)、
アニー・マクナ马拉(『Slave Play』)、ロイス・スミス
(『The Inheritance』)、コーラ・ヴァンデル・ブルーク
(『Linda Vista』)

◇演出賞＝デイビット・クロマー(『The Sound Insi
de』)、ステイヴン・ダルドリー(『The Inheritan
ce』)、ケニー・レオン(『A Soldier's Play』)、ジェイ
ミー・ロイド(『Betrayal』)、ロバート・オハラ(『Slave
Play』)

～ミュージカル部門～

◇作品賞＝『Jagged Little Pill』、『Moulin Rouge!
The Musical』、『Tina: The Tina Turner Musical』

◇主演男優賞＝アロン・トヴェイト(『Moulin Rou
ge!』)

◇主演女優賞＝カレン・オリヴォ(『Moulin Rouge!』)、
エリザベス・スタンリー(『Jagged Little Pill』)、エイド
リアン・ワーレン(『Tina: The Tina Turner Musical』)

◇助演男優賞＝ダニー・バーシュタイン(『Moulin Rou
ge!』)、デレク・クレナ(『Jagged Little Pill』)、ショーン・
アレン・クリル(『Jagged Little Pill』)、サー・ンガウ
ジャ(『Moulin Rouge!』)、ダニエル・J・ワッツ(『Tina:
The Tina Turner Musical』)

◇助演女優賞＝キャサリン・ギャラガー(『Jagged Litt
le Pill』)、セリア・ローズ・グッディング(『Jagged Litt
le Pill』)、ロビン・ハーダー(『Moulin Rouge!』)、ローレ
ン・パットン(『Jagged Little Pill』)、マイラ・ルクレ
ティア・テイラー(『Tina: The Tina Turner Musical』)

◇演出賞＝フリダ・ロイド(『Tina: The Tina Turner
Musical』)、ダイアン・パウルス(『Jagged Little Pill』)、
アレックス・ティンバース(『Moulin Rouge!』)

～両部門～

◇オリジナル楽曲賞＝『A Christmas Carol』(楽曲：ク
リストファー・ナイチンゲル)、『The Inheritance』(楽
曲：ポール・イングリッシュビー)、『The Rose Tattoo』
(楽曲：フィッツ・パットン)、ジェイソン・マイケル・
ウエップ、『Slave Play』(楽曲：リンゼイ・ジョーンズ)、
『The Sound Inside』(楽曲：ダニエル・クルーガー)

◇振付賞＝シディ・ラルビ・シェルカウイ(『Jagged Li
ttle Pill』)、ソニア・タイエ(『Moulin Rouge!』)、アンソ

ニー・パン・ラスト(『Tina: The Tina Turner Musical』)

【2020年ローレンス・オリヴィエ賞】

～演劇部門～

- ◇作品賞=『Leopoldstadt』(作:トム・ストッパー)
- ◇リバイバル賞=『Cyrano de Bergerac』(作:エドモン・ロスタン)
- ◇コメディ賞=『Emilia』(作:モーガン・ロイド・マルコム)
- ◇主演男優賞=アンドリュウ・スコット(『Present Laughter』)
- ◇主演女優賞=シャロン・D・クラーク(『Death of a Salesman』)
- ◇助演男優賞=エイドリアン・スカーボロー(『Leopoldstadt』)
- ◇助演女優賞=インディラ・ヴァルマ(『Present Laughter』)

～ミュージカル部門～

- ◇作品賞=『Dear Evan Hansen』(作:スティーブン・

レベンソン)

- ◇リバイバル賞=『Fiddler on the Roof』(作:ジョセフ・スタイン)
 - ◇主演男優賞=サム・タティ(『Dear Evan Hansen』)
 - ◇主演女優賞=ミリアム=ティーク・リー(『& Juliet』)
 - ◇助演男優賞=デヴィッド・ベデラ(『& Juliet』)
 - ◇助演女優賞=キャンディ・ジャンソン(『& Juliet』)
 - ◇オリジナル楽曲・オーケストラ編曲賞=『Dear Evan Hansen』(作詞作曲:ベンジ・バセク&ジャスティン・ポール, 編曲:アレックス・ラカモア)
- ～両部門～
- ◇演出賞=ミランダ・クロムウェル、マリアンヌ・エリオット(『Death of a Salesman』)
 - ◇振付賞=マシュー・ボーン、スティーヴン・ミア(『Mary Poppins』)

令和2年 雑誌掲載戯曲 2020年1月～12月

「テアトロ」(カモミール社)

- 1月号
- ◆『Kの誘惑・あるいは蝶の夢』 作=鈴木一功
 - ◆『フィクション』 作=中村ノブアキ
- 2月号
- ◆『京都河原町四条上ル 近江屋二階』 作=福田善之
- 3月号
- ◆『ワーニャ伯父さん-田園生活の情景 四幕』 作=A・チェーホフ 上演台本=杉山剛志
 - ◆『語られざるもの』 作=テネシー・ウィリアムズ 上演台本=江原吉博
 - ◆『罨』 作=テネシー・ウィリアムズ 上演台本=江原吉博
- 4月号
- ◆第32回テアトロ新人戯曲賞・受賞作『東京2012～のぞまればさずかれずあるもの～』 作=大西弘記
- 5月号
- ◆第32回テアトロ新人戯曲賞最終選考『鯨』 作=染谷歩
 - ◆故・中村哲氏に捧ぐ『チャンバルハルとちゃんがらの民-アフガニスタン・フクシマ異聞-』 作=本田徹
- 6月号
- ◆『人間と、人間と似たもの。』 作=大西弘記
 - ◆『月山は見ている』 作=相澤嘉久治
- 7月号
- ◆『流れる夢の中で』 作=江久里ばん

- ◆『ラ・フォンテーヌの寓話より(森の生き物たち) Part3』 作=岡田正子
- 8月号
- ◆『本郷菊坂菊富士ホテル』 作=大森句子
 - ◆『731の幻想-「細菌舞台の医師を追い」より-』 作=三條三輪
- 9月号
- ◆『ラ・テンペスタ』 原作=トム・ジョーンズ 翻訳・訳詞=勝田安彦
 - ◆『蛇の蔵』 作=川口啓史
- 10月号
- ◆『戦場のような女 あるいはボスニア紛争の戦場のような女の性について』 作=マテイ・ヴィスニユック 翻訳=川口寛子
- 11月号
- ◆『手紙(三幕)』 作=W・サマセット・モーム 翻案・上演台本=原田一樹
- 12月号
- ◆『セブンティーンズ～ひらつか女学院ダンス部狂想曲』 作=山登敏之
 - ◆『霞晴れたら』 作=ふたくちつよし

「悲劇喜劇」(早川書房)

- 1月号
- ◆『タージマハルの衛兵』 作=ラジヴ・ジョセフ 訳=小田島創志

◆『月の獣』 作＝リチャード・カリノスキー 訳＝渡辺千鶴

3月号

◆『ガラシャ、その愛』 作＝辻仁成

◆『FORTUNE』 作＝サイモン・スティーヴンス 訳＝広田敦郎

5月号

◆『スリーウィンターズ』 作＝テーナ・シュティヴィー
チッチ 訳＝常田景子

◆『ART』 作＝ヤスミナ・レザ 訳＝岩切正一郎

7月号

◆『おや、賢治さん、どちらへ うん、ちよつと、そこまで』 作＝別役実

◆『ケンジトシ』 作＝北村想

9月号

◆『雉はじめて鳴く』 作＝横山拓也

◆『ささやかなさ』 作＝松原俊太郎

◆『はじまって、それから、いつかおわる。』 作＝矢内原美邦

11月号

◆『エレファント・マン』 作＝バーナード・ポメランス 翻訳＝徐賀世子

◆『五十四の瞳』 作＝鄭義信

「演劇と教育」(晩成書房/編集・日本演劇教育連盟)

1+2月号

◆『ことばのかいじゅう』 作＝黒木美那

◆『ムシ・ストーリー』 作＝今村陽介

◆『On My Own』 作＝浅田七絵

3+4月号

◆『保健室でティータイム』 作＝彼ノ矢恵美

◆『にんぎょひめのかくしごと』 原案＝井上万梨衣 作＝小林門住

5+6月号

◆『かぐや姫』 作＝柏木陽

7+8月号

◆『ふねのさきにはやみがあり』 作＝吉田八枝子

◆『森里川海～未来からの夢メッセージ』 作＝吉井貴彦

◆『猫の事務所』 原作＝宮沢賢治 脚色＝中村裕之

9+10月号

◆2020子どもが上演する劇脚本募集・特選『ごめんね! ごめんね!』 作＝浅田七絵

◆2020子どもが上演する劇脚本募集・入選『青の色』 作＝菅原愛

◆2020子どもが上演する劇脚本募集・入選『となりの君に、』 作＝野元準也

11+12月

◆2020子どもが上演する劇脚本募集・準入選『宇宙戦士と夢の国』 作＝宮原愛

◆2020子どもが上演する劇脚本募集・準入選『主人公たち』 作＝久保田晴夏

令和2年 演劇関係新刊書

令和2年(2020年)1月～12月の間に刊行された主な演劇関係新刊図書―演劇論、演劇評論、随筆、芸談、戯曲集―を収録した。

※書名、著者・編集者名、税込価格、出版社名の順に記載した。

〔1月〕

「演劇と教育 2020年02月号」 990円 晩成書房

「もし初めて演劇部の顧問になったら 演劇部指導ハンドブック」 田代卓(著) 2,200円 晩成書房

「Didion Individual view 03 演劇は面白い」 1,100円 エランド・プレス

「演劇界 2020年02月号」 1,480円 小学館

「Stage fan vol.7 (2020) (MEDIABOY MOOK)」 1,045円 メディアボーイ

「act guide 2020 Season5 天保十二年のシェイクスピア/早春の国内外注目作特集 (TOKYO NEWS MOOK)」 900円 東京ニュース通信社

「歌舞伎座の怪紳士」 近藤史恵(著) 1,760円 徳間書店

「授業ノ犀 ベスト・オブ・イヨネスコ 新装版」 ウージェーヌ・イヨネスコ(著) 3,960円 白水社

「Sparkle vol.39 (2020) (メディアボーイMOOK)」 1,800円 メディアボーイ

「役者ほど素敵な商売はない」 市村正親(著) 1,650円 新潮社

「ステージスクエアエクストラ'20 堂本光一『Endless SHOCK』(HINODE MOOK)」 日之出出版(著) 980円 日之出出版

「STAGE navi vol.40 (2020) (NIKKO MOOK TV naviプラス)」 1,020円 産経新聞出版

「STAGE navi WINTER SPECIAL (NIKKO MOOK TVnaviプラス)」 1,200円 産経新聞出版
 「テアトロ 2020年 02月号」 1,300円 カモミール社
 「えんぴつで風姿花伝」 大迫閑歩(著) 1,210円 ポプラ社
 「えんぶ 2020年 02月号」 600円 えんぶ
 「興行師列伝 愛と裏切りの近代芸能史 (新潮新書)」 笹山敬輔(著) 902円 新潮社
 「宝塚GRAPH 2020年 02月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ
 「日経 WOMAN (ウーマン) 宝塚特別ワイド版 2020年 02月号」 730円 日経BPマーケティング
 「19タカラヅカスペシャル (タカラヅカMOOK)」 1,000円 宝塚クリエイティブアーツ
 「L Cing (ル・サンク) 2020年 02月号」 1,000円 宝塚クリエイティブアーツ
 「歌劇 2020年 01月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ
 「戯曲MANKAI STAGE 『A3!』 2019 AUTUMN&WINTER」 亀田真二郎(脚本) 1,980円 ネルケプランニング
 「戯曲MANKAI STAGE 『A3!』 2018 SPRING & SUMMER」 亀田真二郎(脚本) 1,980円 ネルケプランニング
 「澁澤龍彦 泉鏡花セレクション 2 銀燭集」 泉鏡花(著) 9,680円 国書刊行会
 「心を支えるシェイクスピアの言葉」 河合祥一郎(著) 1,760円 あさ出版
 「文学賞受賞作品目録 2014 - 2019」 日外アソシエーツ株式会社(編集) 14,960円 日外アソシエーツ
 「J Movie Magazine Vol.55 森田剛舞台『FORTUNE』(パーフェクト・メモワール)」 990円 リイド社
 「国立文楽劇場 2巻セット」 国立文楽劇場営業課(編集) 770円 日本芸術文化振興会
 「黒川能 1964年、黒川村の記憶」 船曳由美(著) 3,960円 集英社
 「ハナ肇を追いかけて 昭和のガキ大将がクレージーキャッツと映画に捧げた日々」 西松優(著) 1,430円 文芸社
 「てっぺんとるまで! 役者・寺島進自伝」 寺島進(著) 1,760円 ポプラ社
 「+act. (プラスアクト) 2020年 02月号」 990円 ワニブックス
 「ミュージカル 2020年1 - 2月号」 1,000円 出版社ミュージカル出版社

《2月》

「演劇界 2020年 03月号」 1,480円 小学館
 「ベスト・ブレイズ 2 西洋古典戯曲13選」 日本演劇学会分科会西洋比較演劇研究会(編) 4,620円 論創社
 「南相馬メドレー」 柳美里(著) 1,650円 第三文明社
 「新しい造形 新造形主義 (新装版バウハウス叢書)」 ピート・モンドリアン(著) 2,420円 中央公論美術出版
 「寺山修司を待ちながら 時代を挑発し続けた男の文化圏」 石田和男(著) 2,420円 言視舎
 「ステージスクエア vol.43 藪宏太ミュージカル『ジョセフ・アンド・アメージング・テクニカラー・ドリームコート』(HINODE MOOK)」 日之出出版(著) 980円 日之出出版
 「STAGE navi Vol.41 (2020) (NIKKO MOOK TVnaviプラス)」 1,020円 産経新聞出版
 「寺山修司の一九六〇年代 不可分の精神」 堀江秀史(著) 7,480円 白水社
 「歌舞伎評判記集成 第3期第3巻 自安永七年至自安永十年」 役者評判記刊行会(編) 16,500円 和泉書院
 「男性性を可視化する (男らしさ)の表象分析 (神奈川大学人文学研究叢書)」 熊谷謙介(編著) 3,300円 青弓社
 「悲劇喜劇 2020年 03月号」 1,500円 早川書房
 「歌舞伎 研究と批評 歌舞伎学会誌64 特集-明治一五〇年」 歌舞伎学会(編集) 2,563円 歌舞伎学会
 「大人の教養めり絵&なぞり描き歌舞伎」 撫子凜(著) 1,540円 エムディエヌコーポレーション
 「絵で見てわかるはじめての古典 増補改訂版 8巻 能・狂言・歌舞伎・人形浄瑠璃」 田中貴子(監修) 2,750円 学研プラス
 「日本のこと 伝統・文化・風習 (学校では教えてくれない大切なこと)」 森崎達也(マンガ・イラスト) 935円 旺文社
 「文蔵 2020.3 〈ブックガイド〉日本の「伝統芸能」に小説で触れる (PHP文芸文庫)」 「文蔵」編集部(編) 770円 P H P 研究所
 「ドナルド・キーン著作集 16巻セット」 ドナルド・キーン(著) 59,070円 新潮社
 「初嶺麿代の「宝塚式」エレガントレッスン (NHKテキスト NHKまる得マガジン)」 初嶺麿代(著) 628円 NHK出版
 「宝塚GRAPH 2020年 03月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ
 「宝塚受験世界にひとつしかない夢」 川路真瑛(著) 1,870円 左右社
 「脱コンメイク 美の調律師CHIHARU流コンプレックス逆転メイク術 脱!コンプレックス」 CHIHARU

(著) 2,090円 KADOKAWA
 「DANCE OLYMPIA (タカラヅカMOOK)」 1,000円 宝塚クリエイティブアーツ
 「歌劇 2020年 02月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ
 「セレクション戦争と文学 8 オキナワ終わらぬ戦争 (集英社文庫 ヘリテージシリーズ)」 山之口鏡(著) 1,870円 集英社
 「フェデリコ・ガルシア・ロルカと日本」 森直香(著) 6,270円 晃洋書房
 「八百屋お七論 近代文学の物語空間 (新典社研究叢書)」 丹羽みさと(著) 8,470円 新典社
 「偽義経 冥界に歌う 令和編 (K.Nakashima Selection)」 中島かずき(著) 1,980円 論創社
 「森明著作集 第2版」 森明(著) 1,650円 基督教共助会出版部
 「テアトロ 2020年 03月号」 1,300円 カモミール社
 「悲劇喜劇 2020年 03月号」 1,500円 早川書房
 「クリシェ」 川村毅(著) 1,320円 論創社
 「南相馬メドレー」 柳美里(著) 1,650円 第三文明社
 「TVガイド Stage Stars vol.9 (TOKYO NEWS MOOK)」 1,870円 東京ニュース通信社
 「感動」を伝える仕事 エンタテインメントを支える特殊効果の世界」 小峰聖(著) 1,540円 ビジネス社
 「マンガでわかる能・狂言 あらすじから見どころ、なぜか賑気を誘う理由まで全部わかる!」 マンガでわかる能・狂言編集部(編) 1,760円 誠文堂新光社
 「安田登特別授業『史記』 (教養・文化シリーズ 読書の学校)」 安田登(著) 880円 NHK出版
 「舞台俳優は語る」 おーちようこ(著) 3,080円 一迅社
 「BARFOUT! VOLUME294 (2020MARCH) 中島裕翔(Hey!Say!JUMP) 窪田正孝 坂口健太郎 柚希礼音×大谷亮平」 ブラウンズブックス(編集) 968円 ブラウンズブックス
 「fabulous stage Vol.11 (シンコー・ミュージック・ムック)」 1,650円 シンコーミュージック・エンタテイメント
 「やましげのミカタ」 山崎樹範(著) 1,540円 KADOKAWA
 「高倉健の美学 今に生きる201の言葉 (文春ムック)」 高倉健(述) 1,430円 文藝春秋
 「STEPPIN'OUT! 挑戦し続ける大人たちへ VOL.UME12 (2020APRIL) 東山紀之」 ブラウンズブックス(編集) 660円 ブラウンズブックス
 「CLUSTER 生田斗真『偽義経冥界歌』 (TJ MOOK)」 1,089円 宝島社
 「+act. (プラスアクト) 2020年 03月号」 990円 ワ

ニブックス

「特定サービス産業実態調査報告書 興行場、興行団編 平成30年」 経済産業統計協会(編) 8,690円 経済産業統計協会

《3月》

「演劇」 谷賢一(著) 2,200円 而立書房
 「佐藤信と『運動』の演劇 黒テントとともに歩んだ50年」 梅山いつき(著) 3,080円 作品社
 「演劇界 2020年 04月号」 1,480円 小学館
 「ピーター・シェーファー1 ビザロ (ハヤカワ演劇文庫)」 ピーター・シェーファー(著) 2,090円 早川書房
 「STAGE navi vol.42 (2020) (NIKKO MOOK TV naviプラス)」 1,020円 産経新聞出版
 「完本 小林一茶 (中公文庫)」 井上ひさし(著) 990円 中央公論新社
 「あのころ、早稲田で (文春文庫)」 中野翠(著) 792円 文藝春秋
 「ステージグランプリ vol.10 (2020SPRING) (主婦の友ヒットシリーズ)」 主婦の友インフォス(編) 1,705円 主婦の友インフォス
 「明代江南戯曲研究」 田仲一成(著) 18,700円 汲古書院
 「簡略オペラ史 闘いの歴史」 岸純信(著) 2,750円 八千代出版
 「エフィメラル スペイン新古典悲劇の研究」 富田広樹(著) 4,180円 論創社
 「壬生狂言鑑賞ガイド」 壬生寺(編) 1,540円 淡交社
 「三人吉三廓初買 新装版 (新潮日本古典集成)」 二世河竹新七(作) 3,630円 新潮社
 「act guide 2020Season6 Endless SHOCK/春の国内外注目作特集 (TOKYO NEWS MOOK)」 900円 東京ニュース通信社
 「テアトロ 2020年 04月号」 1,300円 カモミール社
 「芸術文化と地域づくり アートで人とまちをシェアせに」 古賀弥生(著) 2,420円 九州大学出版会
 「歌舞伎に女優がいた時代 (中公新書ラクレ)」 小谷野敦(著) 968円 中央公論新社
 「見る・見せる 中国四川・福建の表演にみる『演じる』こと・人・空間」 細井尚子(著) 4,950円 春風社
 「江戸中期上方歌舞伎囃子方と音楽」 前島美保(著) 13,200円 文学通信
 「英文版 歌舞伎の中の日本 (JAPAN LIBRARY)」 松井今朝子 D.クランドール(訳) 3,080円 出版文化産業振興財団

「近代芸能文化史における『壺坂靈験記』 生人形から浄瑠璃、そして歌舞伎・講談・浪花節へ (シリーズ文化研究)」 細田明宏(著) 8,580円 ひつじ書房

「かぶきわらし」 庄司三智子(文・絵) 1,760円 出版ワークス

「よくわかる日本音楽基礎講座 雅楽から民謡まで 増補・改訂版 (音楽指導ブック)」 福井史(著) 2,640円 音楽之友社

「知りたい!日本の伝統音楽 1 調べよう!日本の伝統音楽の歴史」 京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター(監修) 3,300円 ミネルヴァ書房

「知りたい!日本の伝統音楽 2 見てみよう!日本の伝統楽器」 京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター(監修) 3,300円 ミネルヴァ書房

「【オンデマンドブック】伝統文化 入門編」 井上治(編) 1,870円 京都造形芸術大学 東北芸術工科大学出版局 藝術学舎

「知っておきたい 日本の古典芸能 全5巻セット」 瀧口雅仁(編著) 11,000円 丸善出版

「市川團十郎代々 (講談社学術文庫)」 服部幸雄(著) 1,221円 講談社

「ツカメン! お父ちゃんたちの宝塚 (祥伝社文庫)」 宮津大蔵(著) 770円 祥伝社

「宝塚GRAPH 2020年 04月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ

「ザ・タカラヅカ 雪組特集8 (タカラヅカMOOK)」 2,400円 宝塚クリエイティブアーツ

「歌劇 2020年 03月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ

「Le Cing (ル・サンク) 2020年 03月号」 1,000円 宝塚クリエイティブアーツ

「マルグリット・デュラス(声)の幻前 小説・映画・戯曲」 森本淳生(編) 2,750円 水声社

「桜の園 (小説で読む名作戯曲)」 本間文子(著) 1,540円 光文社

「モリエール傑作戯曲選集 3」 モリエール(著) 3,080円 鳥影社

「文章読本 改版 新装版 (中公文庫)」 三島由紀夫(著) 770円 中央公論新社

「火の娘たち (岩波文庫)」 ネルヴァル(著) 1,386円 岩波書店

「完本小林一茶 (中公文庫)」 井上ひさし(著) 990円 中央公論新社

「エフィメラル スペイン新古典悲劇の研究」 富田広樹(著) 4,180円 論創社

「水上瀧太郎の文学 サラリーマン小説の誕生 (近代文学研究叢刊)」 網倉勲(著) 6,600円 和泉書院

「中国古典芸能論考 元代の楊貴妃の物語を中心として」 桜木陽子(著) 13,200円 汲古書院

「アメリカン・ミュージカルとその時代」 日比野啓(著) 2,420円 青土社

「prince of STAGE 話題のミュージカル&2.5次元舞台を徹底特集! Vol.10 (ぶんか社ムック)」 1,800円 ぶんか社

「J Movie Magazine Vol.57 京本大我ミュージカル『ニュージーズ』 (パーフェクト・メモワール)」 990円 リイド社

「spoon.2Di Actors vol.09 (KADOKAWA MOOK)」 1,650円 プレビジョン

「W! VOL.26 有澤樟太郎超SPECIAL 木村達成 梅津瑞樹 立石俊樹 田村升吾 納谷健 (廣済堂ベストムック)」 2,090円 廣済堂出版

「義太夫節浄瑠璃未翻刻作品集 10巻セット」 鳥越文蔵(監修) 30,800円 玉川大学出版部

「中世に架ける橋」 松岡心平(編) 8,250円 森話社

「壬生狂言鑑賞ガイド」 壬生寺(編) 1,540円 淡交社

「俳優原田芳雄」 原田章代(著) 2,420円 キネマ旬報社

「俳優のためのオーディションハンドブック ハリウッドの名キャスト・ディレクターが教える『本番に強くなる』心構え」 シャロン・ピアリー(著) 1,980円 フィルムアート社

「STAGE navi vol.42 (2020) (NIKKO MOOK TV naviプラス)」 1,020円 産経新聞出版

「荷風と戦争 断腸亭日暮に残された戦時下の東京」 百足光生(著) 3,960円 国書刊行会

「築地人形」 青木笙子(著) 2,750円 河出書房新社

「えんぶ 2020年 04月号」 600円 えんぶ

「みーんなほんなごと!」 小松政夫(著) 1,650円 さくら舎

「演劇ワークショップでつながる子ども達 多文化・多言語社会に生きる」 松井かおり(編著) 田室寿見子(著) 3,300円 成文堂

「見る・見せる 中国四川・福建の表演にみる『演じる』こと・人・空間」 細井尚子(著) 4,950円 春風社

「知っておきたい 日本の古典芸能 全5巻セット」 瀧口雅仁(編著) 11,000円 丸善出版

「ミュージカル 2020年3-4月号」 1,000円 出版社ミュージカル出版社

《4月》

「日本演劇思想史講義」 西堂行人(著) 2,750円 論創社

「映画と演劇 ポスターデザインワークの50年 知られざる仕事師の全仕事」 小笠原正勝(著) 誠文堂新光社 4,400円

- 「現代演劇 Vol.22 特集ローレンス・オリヴィエ賞」
現代演劇研究会(編) 3,850円 朝日出版社
- 「演劇年鑑 2020」 日本演劇協会(監修) 3,300円
日本演劇協会
- 「演劇ワークショップでつながる子ども達 多文化・多言語社会に生きる」 松井かおり(編著) 3,300円
成文堂
- 「演劇界 2020年 05月号」 1,370円 小学館
- 「演劇と教育 2020年 04月号」 990円 晩成書房
- 「芝居小屋戦記 神戸三宮シアター・エートーの奇跡と軌跡」 菱田信也(著) 1,760円 苦楽堂
- 「乃木坂46のドラマトゥルギー 演じる身体/フィクション/静かな成熟」 香月孝史(著) 2,200円 青弓社
- 「浅利慶太 一叛逆と正統一 劇団四季をつくった男」
梅津齊(著) 2,420円 日之出出版
- 「川上音二郎欧米公演記録」 倉田喜弘(編著) 4,180円
ゆまに書房
- 「パウハウスの舞台 (新装版パウハウス叢書)」 オスカ・シュレンマー(著) 3,080円 中央公論美術出版
- 「ステージスクエア vol.44 丸山隆平『パラダイス』/『ジャニーズ銀座2020 Tokyo Experience』 (HIN ODE MOOK)」 日之出出版(著) 980円 日之出出版
- 「連句会と北上愛子 七代目嵐吉三郎内儀」 今井輝生(著) 2,750円 燃焼社
- 「STAGE navi vol.43 (2020) (NIKKO MOOK TV naviプラス)」 1,020円 産経新聞出版
- 「近江の名曲淡海節 最後の柝の音から始まる物語」
今井信(著) 2,200円 サンライズ出版
- 「ビジュアル入門江戸時代の文化 京都・大坂で花開いた元禄文化」 深光富士男(著) 4,180円 河出書房新社
- 「風をすくう 貫橋宣夫歌集」 貫橋宣夫(著) 1,200円 清風堂書店
- 「テアトロ 2020年 05月号」 1,300円 カモミール社
- 「一人と千三百人/二人の中尉 平沢計七先駆作品集 (講談社文芸文庫)」 平沢計七(著) 1,980円 講談社
- 「キャリア教育に生きる!仕事ファイル センパイに聞く 26 エンタメの仕事」 小峰書店編集部(編著) 3,080円 小峰書店
- 「奴婢訓 武蔵野美術大学公演2019」 小竹信節(著) 3,520円 武蔵野美術大学出版局
- 「知りたい!日本の伝統音楽 3 受けつごう!伝統音楽の今後」 京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター(監修) 3,300円 ミネルヴァ書房
- 「お札になった!偉人のひみつ 3 作家・芸術家・教育家編」 教育画劇編集部(編) 3,850円 教育画劇
- 「Sparkle vol.40 (2020) (メディアボーイMOOK)」
1,800円 メディアボーイ
- 「日本語のイントネーション しくみと音読・朗読への応用」 郡史郎(著) 2,860円 大修館書店
- 「近代歌舞伎年表 名古屋篇第14巻 大正十四年~大正十五年(昭和元年)」 日本芸術文化振興会国立劇場調査養成部調査記録課近代歌舞伎年表編纂室(編) 20,900円 八木書店出版部
- 「舞台芸術 23 FEATURE 1・ドラマトゥルクの未来 FEATURE 2・豊島重之追悼モレキュラーシアターの軌跡」 京都造形芸術大学舞台芸術研究センター(企画・編集) 1,650円 角川文化振興財団
- 「歌舞伎の101 演目解剖図鑑 イラストで知る見わかる歌舞伎名場面」 辻和子(絵と文) 1,980円 エクスナレッジ
- 「江戸の夢びらき」 松井今朝子(著) 2,090円 文藝春秋
- 「江戸の仕事図鑑 下巻 遊びと装いの仕事」 飯田泰子(著) 2,750円 芙蓉書房出版
- 「ビジュアル入門江戸時代の文化 江戸で花開いた化政文化」 深光富士男(著) 4,180円 河出書房新社
- 「ビジュアル入門江戸時代の文化 京都・大坂で花開いた元禄文化」 深光富士男(著) 4,180円 河出書房新社
- 「大切な声を守り続ける本〈歌う・話す〉を仕事にしている人必読! (音声専門医35年 — 『文殊の知恵』のひとりごと)」 文珠敏郎(著) 1,430円 現代書林
- 「鶴屋南北 (人物叢書 新装版)」 古井戸秀夫(著) 2,420円 吉川弘文館
- 「めをと山賊 新作浄り 食満南北遺稿集 (神戸女子大学古典芸能研究センター研究資料集)」 食満南北(著) 3,850円 和泉書院
- 「宝塚おとめ 2020年度版 (タカラヅカMOOK)」 1,650円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「宝塚GRAPH 2020年 05月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「宝塚の21世紀 演出家とスターが描く舞台」 井上理恵(著) 4,180円 社会評論社
- 「転生する物語 アダプテーションの楽しみ」 渡辺諒(著) 2,750円 春風社
- 「歌劇 2020年 04月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「戯曲MANKAI STAGE 『A3!』 2019SUMMER」 亀田真二郎(脚本) 1,980円 ネルケプランニング
- 「戯曲MANKAI STAGE 『A3!』 2019SPRING」 亀田真二郎(脚本) 1,980円 ネルケプランニング
- 「パッコスの信女・ホルスタインの雌」 市原佐都子(著) 2,420円 白水社

「世界の文学、文学の世界」 奥彩子(編) 1,980円
松籟社

「ドライドックNo.8 乾船渠八號」 乾緑郎(著)
2,420円 羽鳥書店

「悲劇喜劇 2020年 05月号」 1,500円 早川書房

「能のうた 能楽師が読み解く遊楽の物語 続 (新典社選書)」 鈴木啓吾(著) 2,970円 新典社

「青春忘れもの 増補版 (中公文庫)」 池波正太郎(著) 924円 中央公論新社

「三國連太郎、彷徨う魂へ」 宇都宮直子(著) 1,760円 文藝春秋

『ミス・サイゴン』の世界 戦禍のベトナムをくぐり抜けて」 麻生享志(著) 2,420円 小鳥遊書房

「ようこそ伝統芸能の世界 伝承者に聞く技と心」 森田ゆい(著) 2,200円 薫風社

「教養として学んでおきたい能・狂言 (マイナビ新書)」 葛西聖司(著) 957円 マイナビ出版

『呼吸法』で強い身体と心をつくる」 河越八雲(著) 1,430円 ロングセラーズ

「中島かずきと役者人」 中島かずき(著) 1,980円 KADOKAWA

「キャストサイズ 2020Apr春の特別号 立石俊樹/植田圭輔/前川優希/本田礼生/田中涼星/有澤樟太郎/田村心/小林亮太 (三オムック)」 1,800円 三オブックス

「全著作(森繁久彌コレクション) 4 愛」 森繁久彌(著) 3,080円 藤原書店

「日本演劇思想史講義」 西堂行人(著) 2,750円 論創社

《5月》

「演劇界 2020年 07月号」 1,750円 小学館

「演劇と教育 2020年 06月号」 990円 晩成書房

「シアターアーツ 64 2020春」 国際演劇評論家協会日本センター(編) 1,540円 国際演劇評論家協会日本センター

「芝居とその周辺 (井上ひさし発掘エッセイ・セレクション)」 井上ひさし(著) 2,200円 岩波書店

「TVガイドStage Stars vol.10 (TOKYO NEWS MOOK)」 1,870円 東京ニュース通信社

「創造する都市を探る (フィールド科学の入口)」 佐々木雅幸(編) 2,640円 玉川大学出版部

「STAGE navi vol.44 (2020) (NIKKO MOOK TV naviプラス)」 1,020円 産経新聞出版

「つかこうへい正伝 1968 - 1982 (新潮文庫)」 長谷川康夫(著) 1,210円 新潮社

「宮本研エッセイ・コレクション 4 1982-88」 宮本研(著) 3,300円 一葉社

「オペラ戦後文化論 2 日常非常、迷宮の時代1970 - 1995 (ポイエーシス叢書)」 小林康夫(著) 3,080円 未来社

「ライブツイヒの犬 (祥伝社文庫)」 乾緑郎(著) 836円 祥伝社

「テアトロ 2020年 06月号」 1,300円 カモミール社

「えんぶ 2020年 06月号」 600円 えんぶ

「かぶき手帖 最新歌舞伎俳優名鑑 2020年版 特集歌舞伎とメディア」 日本俳優協会(編集) 1,630円 日本俳優協会

「三木竹二 兄鶴外と明治の歌舞伎と (水声文庫)」 木村妙子(著) 4,400円 水声社

「東京の面影 安藤鶴夫随筆傑作選」 安藤鶴夫(著) 2,860円 幻戯書房

「和楽 2020年 06月号」 1,530円 小学館

「'19 宝塚Stage Album (タカラヅカMOOK)」 1,650円 宝塚クリエイティブアーツ

「宝塚GRAPH 2020年 06月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ

「歌劇 2020年 05月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ

「Best Stage 2020年 07月号」 1,080円 音楽と人

「Be Myself 珠城りょう写真集 (タカラヅカMOOK)」 3,600円 宝塚クリエイティブアーツ

「戯曲失われた時を求めて」 マルセル・ブルースト(原著) 1,320円 文芸社

「ロミオとジュリエット (小説で読む名作戯曲)」 シェイクスピア(原作) 1,540円 光文社

「サロメ (文春文庫)」 原田マハ(著) 748円 文藝春秋

「ルネ・シャール全集」 ルネ・シャール(著) 13,200円 青土社

「オトメディアステミュ 2020年 06月号」 1,705円 学研マーケティング

「awesome! Plus DORAMA, MOVIE, STAGE SEARCH MAGAZINE Vol.06 (シンコー・ミュージック・ムック)」 1,430円 シンコーミュージック・エンタテイメント

「福耳 大輪咲かせたかつら人生」 今泉茂登子(著) 1,650円 文藝春秋企画出版部

「大杉連 あるがままに (KAWADEムック)」 河出書房新社編集部(編) 1,430円 河出書房新社

「鴻上尚史のもっとほがらか人生相談 息苦しい『世間』を楽に生きる処方箋」 鴻上尚史(著) 1,430円 朝日新聞出版

《6月》

「演劇思考 『人生』と『ビジネス』を成功に導く『ストーリー

リー」 砂岡誠(著) 2,420円 生産性出版
 「演劇と音楽」 森佳子(編) 3,960円 森話社
 「小さな演劇の大きさについて (ele-king books)」
 佐々木敦(著) 3,080円 Pヴァイン
 「アメリカ演劇 31 エドワード・オールビー特集 3」
 日本アメリカ演劇学会(編) 1,650円 日本アメリカ
 演劇学会
 「STAGE navi vol.45 (2020) (NIKKO MOOK TV
 naviプラス)」 1,020円 産経新聞出版
 「舞台『鬼滅の刃』ビジュアルガイド」 吾峠呼世晴(原
 著) 3,080円 集英社
 「泣くロミオと怒るジュリエット」 鄭義信(著)
 2,200円 リトルモア
 「これは小説ではない」 佐々木敦(著) 3,190円
 出版社:新潮社
 「Sparkle vol.41 (2020) (メディアボーイMOOK)」
 1,800円 メディアボーイ
 「古浄瑠璃・説経研究 近世初期芸能事情 下巻 近世
 都市芝居事情」 阪口弘之(著) 14,300円 和泉書院
 「ケラリーノ・サンドロヴィッチ自選戯曲集1 ナイ
 ロン100°C篇」 ケラリーノ・サンドロヴィッチ(著)
 5,060円 早川書房
 「ケラリーノ・サンドロヴィッチ自選戯曲集 2 昭和
 三部作篇」 ケラリーノ・サンドロヴィッチ(著)
 4,180円 早川書房
 「テアトロ 2020年 07月号」 1,300円 カモミール社
 「悲劇喜劇 2020年 07月号」 1,500円 早川書房
 「日本の名作あらすじ300 (光文社知恵の森文庫)」
 造事務所(編) 990円 光文社
 「みんなが知りたい! 日本のユネスコ無形文化遺産が
 わかる本 増補改訂版 (まなぶつく)」 文化遺産を学
 ぶ会(著) 1,892円 メイツユニバーサルコンテンツ
 「宝塚イズム 41 特集望風風斗&真彩希帆、ハーモ
 ニーの軌跡」 藪下哲司(編著) 1,760円 青弓社
 「歌劇 2020年 06月号」 750円 宝塚クリエイティブ
 アーツ
 「曾根崎心中 (小説で読む名作戯曲)」 近松門左衛門
 (原作) 1,540円 光文社
 「澁澤龍彦 泉鏡花セレクション 3 新柳集」 泉鏡花
 (著) 9,680円 国書刊行会
 「シェイクスピア全集 32 ジョン王 (ちくま文庫)」
 シェイクスピア(著) 990円 筑摩書房
 「暗転座長・芝居断 時代劇への附文」 武野美蔵(著)
 1,760円 文芸社
 「座右の世阿弥 不安の時代を生き切る29の教え
 (光文社新書) 齋藤孝(著) 880円 光文社
 「能のふるさと散歩 改訂新版 京都・奈良編」 岩田
 アキラ(写真・文) 2,860円 繪書店
 「拾われた男」 松尾論(著) 1,650円 文藝春秋

「幸せになるんだぞ 高倉健あの時、あの言葉」 谷久
 代(著) 1,430円 KADOKAWA
 「fabulous stage Vol.11.5 (シンコー・ミュージッ
 ク・ムック)」 1,100円 シンコーミュージック・エ
 ンタテイメント

《7月》

「没入と演劇性 デイドロの時代の絵画と観者」 マイ
 ケル・フリード(著) 5,500円 水声社
 「演劇名鑑2021年度版 増刊テアトロ 2020年 07月号」
 3,500円 カモミール社
 「演劇とメディアの20世紀 (近代日本演劇の記憶と
 文化)」 神山彰(編) 5,060円 森話社
 「演劇と教育 2020年 08月号」 990円 晩成書房
 「四捨五入殺人事件 (中公文庫)」 井上ひさし(著)
 770円 中央公論新社
 「STAGE navi vol.46 (2020) (NIKKO MOOK TV
 naviプラス)」 1,020円 産経新聞出版
 「Stage fan vol.8 (2020) (MEDIABOY MOOK)」
 1,045円 メディアボーイ
 「中学校創作脚本集 2020」 中学校創作脚本集2020編
 集委員会(編) 2,420円 晩成書房
 「ステージスクエア vol.45 堂本光一×井上芳雄
 ミュージカル『ナイヴ・テイル』inシンフォニックコ
 ンサート (HINODE MOOK)」 日之出出版(著)
 980円 日之出出版
 「寺山修司記念館」 笹目浩之(監修) 3,080円
 トゥーヴァージンズ
 「アート・ライフ・社会学 エンパワーするアート
 ベース・リサーチ」 岡原正幸(編著) 4,840円 晃洋
 書房
 「季節を告げる轟轟は夜が知った毛毛毛毛」 藤田貴大
 (著) 1,870円 河出書房新社
 「テアトロ 2020年 08月号」 1,300円 カモミール社
 「郷土史大系 地域の視点からみるテーマ別日本史 6
 宗教・教育・芸能・地域文化」 阿部猛(監修)
 16,500円 朝倉書店
 「映画産業史の転換点 経営・継承・メディア戦略」
 谷川建司(編) 4,730円 森話社
 「伝統芸能ことば蔵一〇〇」 村尚也(著) 1,980円
 繪書店
 「勘三郎の死 劇場群像と舞台回想 評話集」 中村哲
 郎(著) 3,300円 中央公論新社
 「花組新トップ 柚香光 お披露目公演グラフィック速報 ス
 ポーツニッポン 2020夏 宝塚歌劇特集号 臨時増刊」
 460円 スポーツニッポン新聞社
 「宝塚GRAPH 2020年 08月号」 750円 宝塚クリエ
 イティブアーツ

「歌劇 2020年 07月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ
 「エリアス・カネッティ『群衆と権力』の軌跡 群衆論の系譜と戯曲集を手がかりに」 樋口恵(著) 4,290円 晃洋書房
 「Shine 新時代俳優の全身と前進」 古川雄大(著) 2,750円 日経B P
 「歌合乱舞狂乱2019彩時記 ミュージカル刀剣乱舞」ミュージカル『刀剣乱舞』製作委員会(編集) 3,300円 ネルケブランニング
 「えんぶ 2020年 08月号」 600円 えんぶ
 「三島由紀夫研究」 長谷川泉(共編) 2,970円 右文書院
 「俳優と戦争と活字と (ちくま文庫)」 浜田研吾(著) 1,210円 筑摩書房
 「ありがとう! 僕の役者人生を語ろう」 草刈正雄(著) 1,430円 世界文化社
 「Stage fan vol.8 (2020) (MEDIABOY MOOK)」 1,045円 メディアボーイ
 「和田雅成1stフォトエッセイ 邂逅」 和田雅成(著) 2,750円 KADOKAWA
 「その男、佐藤允」 佐藤蘭介(著) 2,420円 河出書房新社
 「ミュージカル 2020年7-8月号」 1,000円 出版社ミュージカル出版社

《8月》

「演劇入門 増補版 (中公文庫)」 福田恆存(著) 1,320円 中央公論新社
 「漂流の演劇 維新派のパスベクティブ」 永田靖(編) 3,080円 大阪大学出版会
 「演劇界 2020年 09月号」 1,590円 小学館
 「ステージスクエア vol.46 増田貴久ミュージカル『ハウ・トゥー・サクシード』(HINODE MOOK)」 日之出出版(著) 980円 日之出出版
 「STAGE navi vol.47 (2020) (NIKKO MOOK TV naviプラス)」 1,020円 産経新聞出版
 「批評王 終わりになき思考のレッスン」 佐々木敦(著) 2,970円 工作舎
 「TVガイドStage Stars vol.11 (TOKYO NEWS MOOK)」 1,870円 東京ニュース通信社
 「清水邦夫の華麗なる劇世界」 井上理恵(著) 2,200円 社会評論社
 「泉鏡花〈観念・人世〉傑作選 本当にさらさら読める! 現代語訳版」 泉鏡花(著) 1,430円 KADOKAWA
 「アルトゥロ・ウイの興隆/コカサスの白墨の輪」 ベルトルト・ブレヒト(著) 2,420円 東直出版
 「悲劇喜劇 2020年 09月号」 1,500円 早川書房

「授業で使えるドラマ技法&アクティビティ50 小学校中学校 (授業づくりサポートBOOKS)」 宮崎充治(監修) 2,200円 明治図書出版
 「ヨーロッパ各地で大当たり 剣劇王筒井徳二郎」 田中徳一(著) 2,200円 勉誠出版
 「ステージグランプリ vol.11 (2020SUMMER&AUTUMN) (主婦の友ヒットシリーズ)」 主婦の友インフォス(編) 1,760円 主婦の友インフォス
 「挫波/敦賀 未練の幽霊と怪物」 岡田利規(著) 2,640円 白水社
 「歌舞伎 研究と批評 歌舞伎学会誌 65 特集一(素人芝居)とその周辺」 歌舞伎学会(編集) 2,563円 歌舞伎学会
 「シリーズ〈日本語の語彙〉4 近世の語彙」 飛田良文(編集代表) 4,070円 朝倉書店
 「百姿繚乱 嵐圭史舞台生活70年 煌めきの役々・舞台写真集」 嵐圭史(著) 2,970円 圭史企画
 「宝塚GRAPH 2020年 09月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ
 「TAKARAZUKA REVUE 2020 (タカラヅカMOOK)」 2,200円 宝塚クリエイティブアーツ
 「Le Cing (ル・サンク) 2020年 08月号」 1,000円 宝塚クリエイティブアーツ
 「歌劇 2020年 08月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ
 「カレル・チャペック戯曲集 2 白い病気/マクロプロスの秘密」 カレル・チャペック(著) 2,200円 海山社
 「幻想小説とは何か 三島由紀夫怪異小品集 (平凡社ライブラリー)」 三島由紀夫(著) 1,870円 平凡社
 「チェーホフの生涯」 イレーヌ・ネミロフスキー(著) 2,200円 未知谷
 「後藤新平の『劇曲平和』 (後藤新平の全仕事)」 平木白星(著) 2,970円 藤原書店
 「テアトロ 2020年 09月号」 1,300円 カモミール社
 「アウグストゥス 虚像と実像 (叢書・ユニベルシタス)」 バーバラ・レヴィック(著) 6,930円 法政大学出版局
 「fabulous stage Vol.12 (シンコー・ミュージック・ムック)」 1,650円 シンコーミュージック・エンタテイメント
 「鳥越裕貴アーティストブック COLORS」 鳥越裕貴(著) 3,080円 ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス
 「定本夢野久作全集 7」 夢野久作(著) 11,000円 国書刊行会
 「股倉からみる『ハムレット』 シェイクスピアと日本人 (学術選書)」 芦津かおり(著) 2,200円 京都大学学術出版会

「SWITCH VOL.38 NO.9 (2020SEP.) 俳優大泉洋のすべて」 大泉洋(著) 1,100円 スイッチ・パブリッシング

「人生に必要な知恵はすべてホンから学んだ (朝日新書)」 草刈正雄(著) 869円 朝日新聞出版

「うちでござそうwith 2.5次元男子 日本を救う2.5次元男子(著) 1,760円 KADOKAWA

「W! VOL.27 梅津瑞樹SPECIAL 鈴木祐樹 渡邊圭祐 立石俊樹 納谷健×近藤頌利 押田岳 飯山裕太 (廣済堂ベストムック)」 2,090円 廣済堂出版

《9月》

「昭和文学研究 第81集 特集現代の演劇と文学」 昭和文学会編集委員会(編集) 4,620円 昭和文学会

「演劇界 2020年 10月号」 1,480円 小学館

「演劇と教育 2020年 10月号」 990円 晩成書房

「人形演劇の現在 モノ、モノ遣い、アクター」 ボイド眞理子(著) 3,080円 Sophia University Press上智大学出版

「何はなくとも三木のり平 父の背中越しに見た戦後東京喜劇」 小林のり一(著) 2,860円 青土社

「STAGE navi vol.48 (2020) (NIKKO MOOK TV naviプラス)」 1,020円 産経新聞出版

「ユリイカ 詩と批評 第52巻第12号10月臨時増刊号 総特集 木別役実の世界」 1,980円 青土社

「Stage fan vol.9 (2020) (MEDIABOY MOOK)」 1,045円 メディアボーイ

「文楽ナビ」 渡辺保(著) 3,300円 マガジンハウス

「Sparkle vol.42 (2020) (メディアボーイMOOK)」 1,800円 メディアボーイ

「絶体絶命文芸時評」 佐々木敦(著) 2,200円 書肆侃侃房

「新彰義隊戦史」 大藏八郎(編) 7,700円 勉誠出版

「長谷川伸の戯曲世界 2 中山七里・一本刀土俵入」 鳥居明雄(著) 3,850円 ベリかん社

「私流演技とは わが役者人生の歩みとともに」 嵐圭史(著) 1,870円 本の泉社

「日本新劇全史 第2巻 昭和二十年～昭和四十年」 大笹吉雄(著) 33,000円 白水社

「獄中シェイクスピア劇団 (語りなおしシェイクスピア)」 マーガレット・アトウッド(著) 2,970円 集英社

「歌舞伎を読む 雅の巻 宮廷の光と影」 大矢芳弘(編著) 4,180円 森話社

「宝塚GRAPH 2020年 10月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ

「Rurika is」 美弥るりか(著) 3,080円 扶桑社

「歌劇2015-2019byLESLIE (タカラヅカMOOK)」

3,500円 宝塚クリエイティブアーツ

「もう68歳と思うのか、まだ68歳と考えるのか」 小柳ルミ子(著) 1,650円 徳間書店

「歌劇 2020年 09月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ

「FLYING SAPA (タカラヅカMOOK)」 1,000円 宝塚クリエイティブアーツ

「舞台文豪とアルケミスト異端者ノ舞戯曲ノ書」 舞台「文豪とアルケミスト」製作委員会(監修) 1,540円 小学館

「舞台文豪とアルケミスト余計者ノ挽歌戯曲ノ書」 舞台「文豪とアルケミスト」製作委員会(監修) 1,540円 小学館

「戯曲背教者」 成沢昭徳(著) 1,100円 文芸社

「ゲザの戯曲・石川啄木」 閻魔悪太郎(著) 770円 文芸社

「スイートルーム組曲 ノエル・カワード戯曲集」 ノエル・カワード(著) 2,200円 而立書房

「白い病 (岩波文庫)」 カレル・チャペック(著) 638円 岩波書店

「澁澤龍彦 泉鏡花セレクション 4 雨談集」 泉鏡花(著) 9,680円 国書刊行会

「ペンゼジレーア」 クライスト(著) 2,200円 論創社

「三浦哲郎全作品研究事典」 秋山駿(編) 5,500円 鼎書房

「菅江真澄 日常生活を取材した旅人 (日本の旅人)」 秋元松代(著) 2,200円 淡交社

「テアトロ 2020年 10月号」 1,300円 カモミール社

「皆川博子随筆精華 書物の森を旅して」 皆川博子(著) 2,970円 河出書房新社

「浪花節の生成と展開 語り芸の動態史にむけて」 真鍋昌賢(編著) 4,840円 せりか書房

「ミュージカル 2020年9-10月号」 1,000円 出版社ミュージカル出版社

「維新の恋と嵐 (Parade Books)」 谷口純(著) 1,100円 パレード

「父のおともで文楽へ (小学館文庫)」 伊多波碧(著) 770円 小学館

「人の心を動かすことができなければ、芸術ではない。連続講座『芸術は何処へ?』」 京都府立文化芸術会館(著) 4,180円 ミネルヴァ書房

「伊藤正義中世文華論集 第5巻 中世文華とその資料上」 伊藤正義(著) 16,500円 和泉書院

「驚流狂言詞章保教本を起点とした狂言詞章の日本語学的研究」 米田達郎(著) 9,350円 武蔵野書院

「ユーモアのある風景」 織田正吉(著) 2,420円 編集工房ノア

「やぎら本 30th ANNIVERSARY BOOK」 柳楽優

弥(著) 2,420円 SDP
 「LOCUS 一軌跡ー 安里勇哉10thメモリアルフォトブック」 安里勇哉(著) 3,850円 KADOKAWA
 「百っぺん灼いてもかまわない 高崎翔太」 永峰拓也(撮影) 3,740円 ワニブックス
 「キャストサイズ 2020Aug夏の特別号 立石俊樹/本田礼生/植田圭輔/前川優希/宮崎湧/田中涼星/北園涼 (三オムック)」 1,800円 三オブックス
 「えんぶ 2020年 10月号」 600円 えんぶ
 「日本伝統文化の英語表現事典 人物編」 亀田尚己(著) 4,180円 丸善出版

《10月》

「なってみる学び 演劇的手法で変わる授業と学校」 渡辺貴裕(編著) 2,530円 時事通信出版局
 「ことばと Vol.2 (2020autumn) ことばと演劇(文学ムック)」 佐々木敦(編) 1,870円 書肆侃侃房
 「演劇界 2020年 11月号」 1,480円 小学館
 「多和田葉子/ハイナー・ミュラー演劇表象の現場新刊」 谷川道子(編) 3,080円 東京外国語大学出版会
 「三島由紀夫 悲劇への欲動 (岩波新書 新赤版)」 佐藤秀明(著) 946円 岩波書店
 「STAGE navi vol.49 (2020) (NIKKO MOOK TV naviプラス)」 1,020円 産経新聞出版
 「ステージスクエア vol.47 亀梨和也『迷子の時間ー語る室2020ー』/SnowMan (HINODE MOOK)」 日之出出版(著) 980円 日之出出版
 「新訳リア王の悲劇 (角川文庫 Shakespeare Collection)」 シェイクスピア(著) 792円 KADOKAWA
 「浪花千栄子 昭和日本を笑顔にしたナニワのおかあちゃん大女優 (角川文庫)」 青山誠(著) 770円 KADOKAWA
 「文化復興1945年 娯楽から始まる戦後史 (朝日新書)」 中川右介(著) 1,089円 朝日新聞出版
 「福地桜痴 無駄トスル所ノ者ハ実ハ開明ノ麗華ナリ (ミネルヴァ日本評伝選)」 山田俊治(著) 4,620円 ミネルヴァ書房
 「ポジティブシンキングにならないために」 狩野良規(著) 2,640円 国書刊行会
 「Rosa横浜ローザ、25年目の手紙」 五大路子(著) 1,650円 有隣堂
 「桜の園 新訳 (転換期を読む)」 アントン・チャーホフ(著) 1,980円 未来社
 「THE BITCH/名もない祝福として」 宇吹萌(著) 2,200円 而立書房
 「ギリシャ美術史入門 2 神々と英雄と人間」 中村る

い(著) 1,980円 三元社
 「テアトロ 2020年 11月号」 1,300円 カモミール社
 「カルチャー・ミックス 3 『文化交換』の美学的展開編(同志社大学人文科学研究所研究叢書)」 清瀬みさを(編著) 3,190円 晃洋書房
 「TRUTH (真実) 『俳優養成』と『キャラクター創造』の技術 ベルソナ、ニード、トラジックフロー」 スーザン・バトソン(著) 2,530円 而立書房
 「日本画と歌舞伎の世界 東山魁夷と近代日本の名画」 松竹株式会社(特別協力) 2,970円 求龍堂
 「KAMINOGE 106 ザ・グレート・歌舞伎中村獅童」 KAMINOGE編集部(編) 1,320円 玄文社
 「彼女たちの三島由紀夫」 中央公論新社(編) 1,980円 中央公論新社
 「宝塚GRAPH 2020年 11月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ
 「Le Cing (ル・サンク) 2020年 10月号」 1,000円 宝塚クリエイティブアーツ
 「NOW!ZOOM ME!! (タカラヅカMOOK)」 1,000円 宝塚クリエイティブアーツ
 「歌劇 2020年 10月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ
 「Airi Kisaki 1013」 綺咲愛里(著) 2,200円 日本文芸社
 「サド侯爵夫人・わが友ヒットラー 新版 (新潮文庫)」 三島由紀夫(著) 605円 新潮社
 「悲劇喜劇 2020年 11月号」 1,500円 早川書房
 「三島由紀夫VS音楽」 宇神幸男(著) 1,980円 現代書館
 「浪花千栄子の人生 苦難を乗り越え日本に笑顔を届けた名女優の知られざる生涯 (MSムック)」 1,210円 メディアソフト
 「江之浦奇譚」 杉本博司(著) 3,190円 岩波書店
 「高倉健 隠し続けた七つの顔と『謎の養女』(講談社文庫)」 森功(著) 726円 講談社
 「加藤剛さんとノーベル賞詩人イェイツ」 大森恵子(著) 1,540円 鳥影社

《11月》

「演劇界 2020年 12月号」 1,480円 小学館
 「舞台上の青春 高校演劇の世界」 相田冬二(著) 1,760円 辰巳出版
 「演劇と教育 2020年 12月号」 1,320円 晩成書房
 「STAGE navi vol.50 (2020) (NIKKO MOOK TVnaviプラス)」 1,020円 産経新聞出版
 「Stage fan vol.10 (2020) (MEDIABOY MOOK)」 1,045円 メディアボーイ
 「TIMELESS 石岡瑛子とその時代」 河尻亨一(著)

3,080円 朝日新聞出版
 「ステージグランプリ vol.12 (2021WINTER) (主婦の友ヒットシリーズ)」 主婦の友インフォス(編) 1,760円 主婦の友インフォス
 「オリヴィエ・メシヤンの教室 作曲家は何を教え、弟子たちは何を学んだのか」 ジャン・ボワヴァン(著) 8,800円 アルテスパブリッシング
 「寺山修司の写真」 堀江秀史(著) 2,640円 青土社
 「青騎士 新装版」 カンディンスキー(編) 5,720円 白水社
 「江戸の黙阿弥 善人を描く」 埋忠美沙(著) 4,950円 春風社
 「坪内逍遙 オンデマンド版 (人物叢書 新装版)」 大村弘毅(著) 3,080円 吉川弘文館
 「鷗外わが青春のドイツ」 金子幸代(著) 2,640円 鷗出版
 「平野甲賀と」 平野甲賀(著) 4,400円 NEAT PAPER
 「家族の肖像 ((新)詩論・エッセイ文庫)」 水崎野里子(著) 1,540円 土曜美術社出版販売
 「シネマスクエア vol.124 Snow Man 『滝沢歌舞伎ZERO 2020 The Movie』 大泉洋×ムロツヨシ/加藤シゲアキ/高橋海人 (HINODE MOOK)」 日之出出版(著) 980円 日之出出版
 「J Movie Magazine Vol.64 Snow Man 『滝沢歌舞伎ZERO 2020 The Movie』 (パーフェクト・メモワール)」 990円 リイド社
 「カマキリのシャルロットとずらんでんわ (講談社の創作絵本 INSECT LAND)」 香川照之(著) 1,430円 講談社
 「物語の近代 王朝から帝国へ」 兵藤裕己(著) 3,080円 岩波書店
 「Best Stage 2021年 01月号」 1,080円 音楽と人
 「日中比較芸能史 (オンデマンド版)」 諏訪春雄(著) 13,750円 吉川弘文館
 「宝塚GRAPH 2020年 12月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ
 「歌劇 2020年 11月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ
 「海を思えば… いくつもの詩歌と物語 戯曲」 牧武志(著) 1,980円 南方新社
 「戯曲MANKAI STAGE 『A3!』 2020WINTER」 亀田真二郎(脚本) 1,980円 ネルケプランニング
 「戯曲MANKAI STAGE 『A3!』 2020AUTUMN」 亀田真二郎(脚本) 1,980円 ネルケプランニング
 「賢者ナータン (光文社古典新訳文庫)」 レッシング(著) 1,056円 光文社
 「学界 2020年 12月号」 990円 文藝春秋
 「人類史」 谷賢一(著) 2,640円 白水社

「TVガイドStage Stars vol.12 (TOKYO NEWS MOOK)」 1,870円 東京ニュース通信社
 「井上ひさしの日本語相談 (朝日文庫)」 井上ひさし(著) 935円 朝日新聞出版
 「水のように」 浪花千栄子(著) 1,430円 朝日新聞出版
 「吉永小百合 私の生き方」 NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」制作班(著) 1,870円 講談社
 「ミュージカル 2020年11 - 12月号」 1,000円 ミュージカル出版
 「立石俊樹1st写真集『TOSHIKI』 (TOKYO NEWS MOOK)」 藤本和典(撮影) 3,300円 東京ニュース通信社
 「伝統芸能の革命児たち」 九龍ジョー(著) 1,650円 文藝春秋
 「渡哲也 昭和の映画俳優「仁義」の栄光 (KAWADE ムック)」 河出書房新社編集部(編) 1,540円 河出書房新社
 「ザテレビジョンSQUARE 02 情熱の存在佐藤流司 (カドカワエンタメムック)」 1,980円 KADOKAWA
 「fabulous stage Vol.13 (シンコー・ミュージック・ムック)」 1,650円 シンコーミュージック・エンタテイメント
 「高倉健の背中 監督・降旗康原に遺した男の立ち姿 (祥伝社文庫)」 大下英治(著) 1,210円 祥伝社
 「W! VOL.28 伊藤健太郎SPECIAL 松井勇歩×近藤頌利×納谷健 渡邊圭祐 坂垣瑞生 有澤樟太郎 蒼木陣 (廣済堂ベストムック)」 2,090円 廣済堂出版
 「英もよう 女形ひとすじ二代目英太郎の生涯」 大久保サチ子(編) 1,320円 幻冬舎メディアコンサルティング
 「mileS JOJI SAOTOME 1ST PHOTO BOOK 早乙女じょうじ (TJW BOOKS)」 ムラタ ミツアキ(フォトグラファー) 3,850円 トランスワールドジャパン
 「日本の伝統文化・風習レファレンスブック」 日外アソシエーツ株式会社(編集) 10,450円 日外アソシエーツ
 《12月》
 「演劇界 2021年 01月号」 1,790円 小学館
 「三島の子どもたち 三島由紀夫の『革命』と日本の戦後演劇」 日比野啓(著) 3,740円 白水社
 「韓国演劇運動史」 柳敏榮(著) 4,400円 風響社
 「act 2020 Season 7 (TOKYO NEWS MOOK)」 1,100円 東京ニュース通信社
 「前 一哲学的 初期論文集」 内田樹(著) 1,980円

草思社

- 「夢をかける」 井上芳雄(著) 2,970円 日経B P
- 「それぞれの山崎正和 (別冊アステイオン)」 サントリー文化財団(編) 1,650円 CCCメディアハウス
- 「悲劇喜劇 2021年 01月号」 1,500円 早川書房
- 「レペルトワール I 1960」 ミシエル・ビュートル(著) 4,950円 幻戯書房
- 「おのずから出て来る能 世阿弥の能楽論、または〈成就〉の詩学」 玉村恭(著) 3,960円 春秋社
- 「とうめいなやさしさ 別役実の童話とおはなし」 巳年キリン(著) 1,320円 三一書房
- 「テアトロ 2021年 01月号」 1,300円 カモミール社
- 「マエストロ、ようこそ 日本クラシック界に歴史を刻む大芸術家たちと舞台芸術」 広渡勲(著) 2,200円 音楽之友社
- 「ザテレビジョンShow 2021年 1/15号」 1,100円 KADOKAWA
- 「魅せる日本舞踊 美しい所作と表現を磨く」 二代目花柳壽應(監修) 2,750円 メイツ出版
- 「明治の一発屋芸人たち 珍芸四天王と民衆世界」 永嶺重敏(著) 3,850円 勉誠出版
- 「快男児! 日本エンタメの黎明期を支えた男」 高橋銀次郎(著) 1,760円 日経B P
- 「宝塚GRAPH 2021年 01月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「歌劇 2020年 12月号」 750円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「Le Cing (ル・サンク) 2020年 12月号」 1,000円 宝塚クリエイティブアーツ
- 「優秀新人戯曲集 2021」 日本劇作家協会(編集) 2,200円 ブロンズ新社
- 「ロボット (中公文庫)」 カレル・チャペック(著) 924円 中央公論新社
- 「殺陣・技斗 魅せるアクションのコツ 動画でわかる実践技術から役作りまで」 ジャパンアクションエンタープライズ(監修) 1,980円 メイツ出版
- 「松下優也写真集『30—Superfluid—』(TOKYO NEWS MOOK)」 レスリー・キー (撮影) 4,000円 東京ニュース通信社
- 「加藤将ファースト写真集 夢・現 —ゆめ・うつ—」 加藤将(著) 3,300円 主婦と生活社
- 「謹訳世阿弥能楽集 上」 世阿弥(著) 1,980円 檜書店
- 「能と狂言 17 〈特集〉美術工芸と能楽」 能楽学会(編) 2,200円 能楽学会
- 「占領下のエンタテイナー 日系カナダ人俳優&歌手・中村哲が生きた時代」 寺島優(著) 2,750円 草思社
- 「俳優・タレント養成ガイド2021年度版 増刊テアト

- ロ 2020年 12月号」 1,513円 カモミール社
- 「虹の刻」 村上虹郎(著) 3,080円 CCCメディアハウス
- 「2・5次元クロニクル2017-2020 合わせ鏡のプラネタリウム」 上田麻由子(著) 2,200円 筑摩書房
- 「三船敏郎伝 わたしのトシローさん」 粟津誠(著) 1,650円 俱子オフィス
- 「THREE TALES 林遣都作品集」 林響太郎(写真) 2,750円 SDP
- 「スラヴァンスキイ・バザアル ロシアの文学・演劇」 井桁貞義(編) 6,600円 水声社
- 「浪花千栄子の人生劇場 昭和の道頓堀に咲いた笑いと涙の一代記! (TJ MOOK)」 1,650円 宝島社

令和2年 演劇関係物故者一覧

※敬称略

【1月】

- 上原正三** 脚本家。1月2日、肝臓がんのため死去。82歳。1941年『ウルトラQ』で脚本家デビュー。その後「ウルトラセブン」シリーズを手がけたほか、「帰ってきたウルトラマン」シリーズのメインライターを務めた。また小説『キジムナーkids』では第33回坪田譲治文学賞を受賞している。
- 中山功** 舞台照明家。1月7日、死去。81歳。ステージ・ライティング・スタッフ(SLS)の創立メンバー。創業以来、劇団民藝の公演にも欠かせない存在であり、演劇芸術におけるスタッフの地位向上にも尽力した。
- 大野慶人** 舞踏家。1月8日、敗血症のため死去。81歳。1959年、土方巽『禁色』で少年役を演じたのち、60年代に暗黒舞踏派公演に参画。一時、舞台活動から離れたが、85年に父・大野一雄と共演した『死海』で復帰。86年以降は大野一雄の全作品を演出した。
- バック・ヘンリー** 米・俳優、脚本家。1月8日、死去。89歳。1967年のダスティン・ Hoffman主演の映画『卒業』の脚本を担当し、アカデミー賞脚本賞を受賞。78年公開の『天国から来たチャンピオン』では共同監督として監督賞にもノミネートされていた。
- 田畑猛雄** 俳優。1月11日、老衰のため死去。81歳。関西芸術座出身。テレビドラマ『銭形平次』『用心棒』シリーズなど数多くの時代劇ドラマなどに出演した。
- 青山京子(本名・小林みどり)** 俳優。1月12日、肺がんのため死去。84歳。1952年の映画『思春期』でデビュー。代表作は54年公開の映画『潮騒』(監督・谷口千吉)。1967年に小林旭と結婚し、女優を引退していた。
- 坪内祐三** 評論家。1月13日、急性心不全のため死去。61歳。書評や評論、エッセイなど多岐にわたって執筆。劇団民藝の2008年公演『ブライス』のパンフレットに寄稿するなどしていた。
- 穴戸錠** 俳優。1月18日、虚血性心疾患のため死去。86歳。日本大学芸術学部在学中の1954年に日活第1期ニューフェイスに合格。55年の映画『警察日記』でデビュー。二枚目スターとしてデビューするものの、その後、小林旭主演『渡り鳥』『流れ者』シリーズや赤木圭一郎主演『拳銃無頼帖』シリーズに敵役として出演。主役に匹敵する人気を博し、「エースのジョー」の愛称で日活の黄金期を支えた。
- 原知佐子** 俳優。1月19日、上顎肉腫のため死去。84歳。70年代のテレビドラマ『赤い疑惑』など「赤い」

シリーズで山口百恵演じるヒロインの“いびり”役として有名になり、『岸辺のアルバム』などテレビを中心に活躍。2006年に亡くなった映画監督・実相寺昭雄の妻。

●**上野隆三** 殺陣師。1月19日、死去。82歳。1956年に東映京都撮影所に入所。殺陣師に転じ、「仁義なき戦い」シリーズなど170本以上の映画や、時代劇「水戸黄門」シリーズなどの殺陣やアクションを担当した。

●**佐藤研一郎** ローム取締役。1月15日、閉塞性黄疸のため死去。88歳。京都に本社を置く半導体の世界的メーカーの創業者。1991年に音楽財団「ロームミュージックファンデーション」を設立。指揮者の小澤征爾による若手音楽家育成プロジェクトを支援するなど文化活動に注力。また2011年には再整備事業に取り組み東京都館とネーミングライツ契約を結び、「ロームシアター京都」誕生に尽力した。

●**大井邦雄** 英文学者。1月20日、死去。86歳。早稲田大学名誉教授。シェイクスピアやエリザベス朝演劇が専門。著書に『シェイクスピアをめぐる航海』『シェイクスピア この豊かな影法師』。

●**宮下展夫** 演劇評論家。1月21日、死去。90歳。朝日新聞芸芸部員を経て朝日ジャーナル編集長を務める。「悲劇喜劇」の編集などにも携わった。著書に『遠い雲 遠い海 わたしがめぐりあった作家・演劇人』。

●**テリー・ジョーンズ** 英・喜劇俳優。1月21日、死去。77歳。英・コメディグループ「モンティ・パイソン」のメンバー。1969年に始まったコメディ番組『空飛ぶモンティ・パイソン』で世界的人気を博した。

●**中村龍史** 演出家・振付家。1月22日、死去。68歳。1969年に劇団四季研究所に入所し独立。その後俳優として活動する一方で、演出家・振付家としても活躍。松任谷由美のコンサートや、ショーやミュージカルなど300本以上の作品の構成・振付・演出を手がけた。2011年からは『筋肉(マッスル)ミュージカル』に取り組み、国内だけでなく06年、07年には米・ラスベガスでのロングラン公演も成功させた。

●**児玉庸策** 演出家。1月26日、脳梗塞のため死去。82歳。1965年から劇団民藝の劇団員となり、74年『蜚語』で演出家デビュー。主な作品に『かの子かんのん』『橋からの眺め』『沖繩』等。

●**ハリエット・フランク・Jr** 米・脚本家。1月28日、死去。96歳。脚本を手がけた1947年初演の舞台『階段の上の暗闇(The Dark At The Top Of The Stairs)』でトニー賞ベストプレイにノミネートされた。

●**梓みちよ** 歌手。1月29日、マネージャーが都内の

自宅を訪ねたところ亡くなっているのが見つかった。76歳。高校を中退し、宝塚音楽学校に入学。在学中に芸能プロダクションのオーディションに合格し、1962年「ボッサノバでキス」で歌手デビュー。63年にリリースした「こんにちは赤ちゃん」がミリオンセールスを記録し、同年の日本レコード大賞を受賞。74年リリースの「二人でお酒を」はあぐらをかきながら歌うスタイルが話題に。歌謡曲からポップスまで幅広いレパートリーを持ち、60年代、70年代を代表する歌手のひとりだった。

●**高石太** 喜劇俳優。1月31日、虚血性心疾患のため死去。71歳。新劇青猫座、劇団喜劇などを経て1975年に吉本新喜劇に入団。87年に退団後は松竹新喜劇などを経て、札幌の市民喜劇団などで活躍していた。

●**内田勝正** 俳優。1月31日、肝細胞がんのため死去。75歳。1966年に劇団四季研究所に入所。劇団「浪漫劇場」を経て、ドラマ「水戸黄門」「大岡越前」「暴れん坊将軍」など多数の時代劇などに出演し、悪役を中心に活躍。2010年から日本俳優連合副理事長を務めた。

【2月】

●**テレンス・デビット・ハンズ** 英・演出家。2月4日、死去。79歳。リバプール・エプリマン・シアターで活動後、ロイヤル・シェイクスピア・カンパニーに。1978年にトレバー・ナンと共同芸術監督に就任。1986年からはチーフ・エグゼクティブに就任。ローレンス・オリビエ賞、イブニング・スタンダード・アワードなど多数受賞。

●**カーク・ダグラス** 米・俳優。2月5日、死去。103歳。ニューヨークの演劇学校で学び1940年代から俳優として本格的に活動を開始。映画『OK牧場の決闘』、『スパルタカス』など数々の作品に出演。ハリウッド黄金期を代表するスターの一人となった。アカデミー主演男優賞には3度ノミネート、81年には当時のカーター大統領から文民に送られる最も荣誉ある「大統領自由勲章」も授与された。息子は俳優のマイケル・ダグラス。

●**北村三郎** 俳優。2月6日、急性心筋梗塞のため死去。82歳。高校卒業後に「ときわ座」に入団。その後、金城哲夫を作家にした劇団「潮」などの沖縄芝居で活躍。また劇団「創造」、新劇集団「耕」などでも活躍した。1995年度に沖縄タイムス芸術選賞大賞受賞。

●**遠藤拓郎** 劇作家、横浜ポर्टシアター代表。2月7日、急性腎不全のため死去。91歳。1981年に横浜ポर्टシアターを結成。83年、仮面劇『小栗判官・照手姫』で紀伊國屋演劇賞を受賞した。

●**日下部五朗** 映画プロデューサー。2月7日、腎不全のため死去。85歳。大学卒業後に東映に入社。『緋牡丹博徒』『柳生一族の陰謀』など130本を超える映画・

大型時代劇をプロデュース。主な作品に『陽暉楼』『肉体の門』『橋山節考』など。

●**坂口芳貞** 俳優。文学座附属演劇研究所所長。2月13日、大腸がんのため死去。80歳。1963年に文学座附属演劇研究所に入所。65年の舞台『友絵の鼓』で初舞台を踏み67年に文学座座員となり多くの舞台に出演。一方でモーガン・フリーマン、ショーン・コネリー、トミー・リー・ジョーンズなどの吹替も担当した。

●**ゾーイ・コールドウェル** 豪・俳優。2月16日、パーキンソン病に伴う合併症のため死去。86歳。米・ブロードウェイを中心に舞台や映画などで幅広く活躍。舞台『マスター・クラス』でマリア・カラス役を演じたことで知られる。トニー賞を4回受賞した。

●**斎藤恒久** 浅草ロック座会長。12月20日、肝細胞がんのため死去。72歳。浅草ロック座の舞台を照明や音響などの工夫を凝らしたミュージカル風に仕立てるなど、新しいショー路線を作り上げた。また先代社長などと親交のあったビートたけしの監督・主演作『座頭市』ではプロデューサーを務めた。

●**勝田久** 声優。2月21日、老衰のため死去。92歳。日本の声優の草分けの一人。テレビアニメ『鉄腕アトム』お茶の水博士や『ジャングル大帝』マンディの声を務めるなど数多くの作品に携わった。勝田声優学院を設立し、更新の育成にも尽力した。

●**岸野一彦** 俳優・声優。2月22日、急性心不全のため死去。86歳。東京俳優生活協同組合(俳協)所属。声優としてアニメ『キン肉マン』キン肉大王役のほかアニメや海外ドラマの吹替で活躍。俳優としてはNHK大河ドラマ『新・平家物語』『勝海舟』などにも出演した。

●**安田正利** 俳優。2月26日、間質性肺炎のため死去。87歳。1954年に劇団民藝附属演劇研究所に入所し、65年劇団員に。『静かな落日』『泰山木の木の下で』『送り火』など多くの舞台に出演。2013年『どろんどろん』地方公演では故・大滝秀治の代わりに鶴屋南北役を務めた。

●**雅章子** 俳優。元宝塚歌劇団。2月27日、心不全のため死去。89歳。元プロ野球選手のご・金田正一氏の妻。

【3月】

●**仙元誠三** 撮影監督。3月1日、死去。81歳。1958年に松竹に入社し、67年にフリーに。故・松田優作主演『蘇る金狼』のほか『セーラー服と機関銃』(主演・葉姉丸ひろ子)『探偵物語』、ドラマ『西部警察』『あぶない刑事』など多くの名作を手がけた。

●**ジェームズ・リフトン** 米・俳優、脚本家。3月2日、膀胱がんのため死去。93歳。有名俳優・監督にインタビューする人気番組「アクターズ・スタジオ・イ

ンタビュー」で20年以上に渡り司会を務めた。

●**別役実** 劇作家。3月3日、肺炎のため死去。82歳。不条理劇の創始者とされるサミュエル・ベケットの影響を受け、早稲田大学在学中に劇作を始める。鈴木忠志らと出会い新劇自由舞台(後の早稲田小劇場)を旗揚げ。「マッチ売りの少女」「赤い鳥の居る風景」で第13回岸田國土戯曲賞を受賞。日本の不条理劇の第一人者として数々の名作を残した。一方で童話やエッセーも多数手がけた。晩年はパーキンソン病と闘いながら劇作を続け、2018年10月に上演された「ああ、それなのに、それなのに」が最後の演劇作品となった。

●**マート・クロウリー** 米・劇作家。3月7日、死去。84歳。舞台『真夜中のパーティー(The Boys in the Band)』の作者として知られる。

●**マックス・フォン・シドー** 仏・俳優。3月8日、死去。90歳。スウェーデン生まれ。イングマール・ベルイマン監督『第七の封印』『処女の泉』の主役で注目され、『エクソシスト』など世界で数々の作品に出演。1987年の『ペレ』で米アカデミー賞主演男優賞にノミネートされた。

●**真帆志ぶき** 俳優。3月9日、肺炎のため死去。87歳。1952年に宝塚歌劇団に入団。62年に雪組トップスターに就任。75年の退団まで宝塚屈指の実力派スターとして活躍。専科移動後の71年に星組公演で主演した『ノバ・ボサ・ノバ〜盗まれたカルナバル』は代名詞で、後に再演を重ねる人気作になった。2014年『宝塚歌劇の殿堂』に選ばれた。

●**宮城まり子** 歌手、俳優。3月21日、悪性リンパ腫のため死去。93歳。歌手としてデビューし、1955年「ガード下の靴みがき」などがヒット。俳優としては『黒い十人の女』(監督・市川崑)などに出演。舞台で脳性まひの子供を演じたのを機に68年に「ねむの木学園」を開設した。2012年瑞宝小綬章。

●**増岡弘** 俳優、声優。3月21日、直腸がんのため死去。83歳。東京俳優生活協同組合(俳優)所属。1958年に劇団表現座を立ち上げ。声優として『サザエさん』二代目・マスオ役を78年から41年間、『アンパンマン』ジャムおじさん役を88年から31年間務めた。

●**テレンス・マクナリー** 米・劇作家。3月24日、新型コロナウイルスによる合併症のため死去。81歳。1960年代から脚本家として活動を開始。戯曲『マスター・クラス』のほかミュージカル『蜘蛛女のキス(Kiss of the Spider Woman)』『ラグタイム(Ragtime)』『フル・モンティ(The Full Monty)』『キャッチ・ミー・イフ・ユー・キャン(Catch Me If You Can)』『アナスタシア(Anastasia)』など数々の名作を生みだし、トニー賞を複数回受賞。2019年にはトニー賞特別功労賞も受賞。

●**宇高通成** 金剛流能楽師シテ方。3月28日、悪性リ

ンパ腫のため死去。72歳。1960年に二世金剛巖に入門。70年に独立し、秘曲や難曲を披露する「能を楽しむ会」を長年主宰。85年には国際能楽研究会を設立し、外国籍の能楽師の育成にも力を注いだ。第29回催花賞を受賞。重要無形文化財保持者(人間国宝)。

●**堀川とんこう** テレビ演出家・プロデューサー。3月28日、肺がんのため死去。82歳。1961年に東京放送(現・TBS)に入社。プロデューサー、演出家として活躍。代表作は『岸辺のアルバム』『父系の指』など。

●**志村けん** タレント。3月29日、新型コロナウイルスによる肺炎のため死去。70歳。1974年、ドリフターズの正式メンバーに。『8時だヨ!全員集合』でうたった「東村山音頭」や、「バカ殿様」「変なおじさん」などのキャラクターで人気を集めた。多くのレギュラー番組を抱える一方、2006年からは様々なコントや芸を見せる舞台『志村魂』を旗揚げ、ライフワークとして毎年公演を続け作家・演出家・演者として独自の笑いを極めた。

●**佐々部清** 映画監督。3月31日、死去。62歳。横浜放送映画専門学院(元・日本映画大学)卒業後、フリーの助監督を経て2002年『陽はまた昇る』で監督デビュー。2004年『半落ち』(主演・寺尾聡)が大ヒットし、日本アカデミー賞最優秀作品賞を受賞した。

【4月】

●**志賀勝** 俳優。4月3日、拡張型心筋症のため死去。78歳。脇役として活躍する俳優集団「ピラニア軍団」を結成。強面の風貌を活かし、任侠映画や時代劇などで活躍。主な出演作に『仁義なき戦い』『俺たちに墓はない』。

●**C・W・ニコル** 作家・環境保護活動家。4月3日、直腸がんのため死去。79歳。カナダなどで野生動物の保護に取り込んだ後、1962年初来日し80年から長野に拠点を置き環境保護活動に取り組んだ。一方で作家としても活躍。小説『風を見た少年』は日本の劇団で舞台化された。

●**長山礼三郎** 能楽観世流シテ方。4月5日、間質性肺炎のため死去。77歳。大阪文化祭賞を3度受賞。「能・狂言鑑賞の会」主催。

●**荘司美代子** 俳優、声優。4月7日、脳出血のため死去。83歳。東京演劇アンサンブルで舞台俳優として活躍する傍ら、声優としてアニメ『ムーミン』ミムラねえさん役などを担当した。

●**大林彦彦** 映画監督。4月10日、肺がんのため死去。82歳。成城大学在学中から自主映画を製作。大学中退後、チャールズ・ブロンソンやソフィア・ローレン、高峰三枝子や上原謙などの起用したCMが次々にヒット。その後、故郷の広島・尾道を舞台にした映画『転校生』『時をかける少女』『さびしんぼう』が尾道3部

作として人気に。そのほか代表作は『ねらわれた学園』『青春デンデケデケデ』など多数。地域の映像文化の浸透や後進の育成にも尽力し、北海道・芦別市「芦別映画学校」、大分県臼杵市「風の映画学校」の校長も務めた。2004年紫綬褒章、09年旭日小綬章、19年文化功労者。

●**藤原啓治** 声優。4月12日、がんのため死去。55歳。文学座付属演劇研究所を経て声優に。『クレヨンしんちゃん』野原ひろし役、映画『アイアンマン』以降、ロバート・ダウニー・Jr.の吹き替えを行っていた。

●**ブライアン・デネヒー** 米・俳優。4月15日、死去。81歳。映画や舞台で幅広く活躍し、映画『ランボー』の保安官役など実力派の名脇役として知られた。舞台『セールスマンの死』『夜への長い旅路』では、それぞれトニー賞主演男優賞を受賞した。

●**ルイス・セプルベダ** チリ・作家。4月16日、新型コロナウイルスによる合併症のため死去。70歳。ベストセラーとなった『カモメに飛ぶことを教えた猫』は、日本の一部の中学生の英語教科書に要約が掲載されているほか劇団四季ファミリーミュージカルの原作になった。

●**志賀廣太郎** 俳優。4月20日、誤嚥性肺炎のため死去。71歳。『アンフェア』『三匹のおっさん』『陸王』など名脇役として知られ、数多くのドラマに出演。1990年から劇団「青年団」に入団。ドラマなどの仕事と並行して劇団の本公演やナイロン100℃などの舞台に出演していたほか、母校の桐朋学園芸術短期大学演劇専攻で非常勤講師を務め、後進の指導にも当たっていた。

●**岡江久美子** 俳優。4月23日、新型コロナウイルスによる肺炎のため死去。63歳。1975年のテレビドラマ『お美津』お美津役でデビュー。その後、『天までとどけ』など多数のドラマや映画に出演したほか、『連想ゲーム』『はなまるマーケット』などでもお茶の間の人気を集めた。夫は俳優の大和田獏、娘は舞台などでも活躍する俳優・大和田美帆。

●**久米明** 俳優。4月23日、心不全のため死去。96歳。1947年に劇作家・木下順二らと劇団「ぶどうの会」設立に参加し『夕鶴』に出演。その後、劇団昴に所属し『どん底』『セールスマンの死』など多くの舞台で活躍した。また、温かみと落ち着きのある声で吹替やナレーションでも親しまれた。特にハンフリー・ボガードの吹替で知られ「和製ボギー」とも呼ばれ人気を博した。92年紫綬褒章、97年旭日小綬章。

●**和田周** 俳優。4月23日、新型コロナウイルスによる肺炎のため死去。81歳。俳優養成所を卒業後、演劇組織「夜の樹」を主宰。NHK大河ドラマ『勝海舟』『武蔵 MUSASHI』などにも出演。息子は脚本家の虚淵玄さん。

●**馬場正男** 映画美術。4月23日、急性腎不全のため

死去。92歳。映画『羅生門』（黒澤明監督）などに関わった後、京都・太秦の松竹撮影所に長く所属。映画美術のほかテレビ時代劇のセットも数多く担当した。

●**西坂瑞城** プロデューサー。4月24日、心不全のため死去。43歳。2000年にフジテレビ入社。ドラマ『ガリレオ』（主演・福山雅治）第2シーズンの演出を担当したほか、『教場』（主演・木村拓哉）のプロデュースを担当するなど、多くのドラマ制作に携わった。

●**千田隼生** 俳優。4月25日、肺がんのため死去。81歳。劇団民藝を経て1972年に劇団銅羅の創立に参加。代表作は『炎の人』『橋』『燃える雪』『センボ・スギハアラ』ほか多数。3月28日に行われた『蝙蝠傘と南瓜』の収録のための無観客上演が最後の出演となった。

●**鷹西雅裕(本名・鷹西政博)** 俳優。4月26日、うつ病・心不全のため死去。82歳。1960年東宝現代劇に入団。舞台『放浪記』（主演・森光子）で1961年の初演から2009年最終公演まで1800回以上に渡り出演したほか、山田五十鈴の代表作『たぬぎ』にも74年初演から出演するなど、東宝演劇の名脇役として活躍した。

●**金内喜久夫** 俳優。4月28日、がんのため死去。87歳。1967年に文学座の座員となり、『熱海殺人事件』『飢餓海峡』など多くの舞台に出演。2019年の『この道はいつかきた道』が最後の舞台となった。十三夜会奨励賞、十三夜会助演賞、第43回紀伊國屋演劇賞個人賞を受賞。

●**善竹富太郎** 大蔵流狂言師。4月30日、新型コロナウイルス感染に伴う敗血症のため死去。40歳。曾祖父の善竹彌五郎は狂言界で初の人間国宝、父は善竹十郎。5歳で初舞台。また舞台だけでなくカルチャースクールや大学などでも狂言の普及活動に尽力した。

【5月】

●**サミュエル・ロジャー・ホーチョウ** 米・演劇プロデューサー 5月2日、死去。1992年にミュージカル『Crazy for You』（スーザン・ストロマン振付）をプロデュース。ブロードウェイ版ではトニー賞、ロンドン版ではローレンス・オリビエ賞のそれぞれ最優秀ミュージカル賞を受賞。また2000年の『Kiss Me Kate』ではトニー賞最優秀ミュージカル・リバイバル賞を受賞した。

●**ジェリー・スティラー** 米・俳優。5月11日、老衰のため死去。92歳。アメリカを代表するコメディ俳優。大学卒業後、ブロードウェイで舞台デビュー。数々の映画や舞台に出演する中、ミュージカル映画『ヘアスプレー』（1988年）では、主人公・トレイシーの父親役を好演し、2007年のリメイク版にも別な役で出演した。息子は俳優のベン・スティラー。

●**ミシェル・ピッコリ** 仏・俳優。5月12日、脳卒中のため死去。94歳。ブリジット・バルドーと共演し

た『軽蔑』（監督＝ジャンリュック・ゴダール）で一躍有名に。『昼顔』『すぎ去りし日の…』のほか、アルフレド・ヒチコックら有名監督の作品に多数出演した。

●**秋山ジョージ** 漫画家。5月12日、死去。77歳。1966年『ガイコツくん』でデビュー。幕末の人間模様を描いた代表作『浮浪雲』は44年続くヒット作となり、舞台化やテレビドラマ化もされた。

●**井波律子** 中国文学者。5月13日、肺炎のため死去。76歳。『三国志演義』の個人全訳や『水滸伝』などの古典から近代までの中国文学の翻訳で知られる。

●**ロルフ・ホーホフト** 独・劇作家。5月13日、死去。89歳。ナチス・ドイツによるユダヤ人大虐殺を黙認したとして当時のローマ教皇ピウス12世の姿勢に疑問を呈した戯曲『神の代理人』で知られる。その他『兵士たち』『ゲリラ』『ドイツの恋』など。

●**吹原幸太** 劇作家・脚本家。5月17日、脳幹出血のため死去。37歳。劇団「ポップンマッシュルームチキン野郎」主宰。劇団の作・演出を担当していたほか、テレビドラマ『天才バカボン』『オトメン』の脚本を手がけた。

●**磯野勉** 太田プロダクション会長。5月20日、死去。年齢非公表。1963年に芸能事務所「太田プロダクション」を設立。てんぶくトリオをはじめ、ツアー、山田邦子ら多くのタレントを育てた。

●**高瀬将嗣** 殺陣師・アクション監督。5月25日、胃がんのため死去。63歳。芸道殺陣「波濤流」高瀬道場主宰。大学卒業後、技斗師や殺陣師として活動。代表作に『バーバップハイスクール』『あぶない刑事』『マルタイの女』。

●**大橋宏** 舞台演出家。5月25日、食道がんのため死去。64歳。1986年に劇団DA・Mを設立し、代表として活動。97年からは現代演劇を通じたアジアの交流イベント「アジア・ミーツ・アジア」を展開していた。

●**丸橋恒夫** 宣伝・歌舞伎研究。5月26日、死去。96歳。劇団前進座宣伝部などで活動を行う一方、著作『歌舞伎万華鏡』などを出版した。第15回日本舞台芸術家組合賞、前進座創立70周年記念賞。

●**岡村春彦** 演出家・俳優。5月31日、肺炎のため死去。85歳。劇団民藝の同期であった米倉斉加年らと劇団青年芸術劇場を創設。『森は生きている』などの演出を手がけた。またドラマ『七人の刑事』などに出演した。

【6月】

●**富田祐一** 俳優。6月2日、死去。83歳。舞台の出演のほか方言指導などでも活躍した。

●**服部克久** 作編曲家。6月11日、心不全のため死去。83歳。父は作曲家の服部良一氏。フジテレビ『ミュージックフェア』で編曲を長く担当。その他、テレビや

CMなどで数多くの作編曲を手がけた。

●**加藤茂雄** 俳優。6月14日、慢性腎不全のため死去。94歳。東宝の専属俳優となり『生きる』『七人の侍』や『ゴジラ』シリーズなど数多くの映画作品のほかドラマなどで脇役として活躍。2019年、93歳で初主演した映画『浜の記憶』が公開された。

●**阿彦哲郎** 日本人元抑留者。6月18日、死去。89歳。半生を描いた舞台『アクタス村の阿彦 カザフ人になった日本人』が2016年にアウエゾフ記念国立アカデミー劇団により初演され、17年東京公演も行われた。

●**イアン・ホルム** 英・俳優。6月19日、死去。88歳。映画『炎のランナー』のコーチ役で米アカデミー賞助演男優賞候補に。その他『エイリアン』『ロード・オブ・ザ・リング』シリーズなど出演作は多数。また97年、ロンドンのナショナル・シアター『リア王』で主演を務めるなど、英・演劇界で長くに渡り活躍した。

●**ジョエル・シュマッカー** 米・映画監督。6月22日、死去。80歳。映画『セント・エルモス・フェア』『フラットライナーズ』『バットマン フォーエヴァー』のほか、アンドリュウ・ロイド＝ウェバーのミュージカル『オペラ座の怪人』の映画版のメガホンを執った。

●**カール・ライナー** 米・俳優。6月29日、老衰のため死去。98歳。ブロードウェイでキャリアをスタートさせた後、俳優だけでなく脚本家、監督、プロデューサーとして精力的に活動。映画『オーシャンズ11』の詐欺師役で知られるほか、制作にも関わったコメディ番組などで、米テレビ界最高の栄誉とされるエミー賞を多数受賞。

●**ジョニー・マンデル** 米・作曲家。6月29日、心疾患のため死去。94歳。映画『いそぎ』の主題歌でアカデミー賞とグラミー賞を受賞した。

●**井上正子** 脚本家。6月30日、卵管がんのため死去。79歳。映画『TOMORROW/明日』のほか、芸術祭優秀賞を受賞したドラマ『義父のいる風景』などを手掛けた。

【7月】

●**与座ともつね** 俳優。7月1日、死去。83歳。2016年に死去した兄・与座朝惟と共に「与座兄弟」として人気に。『大新誠忠勇伝』『首里城明渡し』など刺激を得意とし、俳優活動だけでなく後輩の育成にも力を注ぎ沖繩芝居の継承・発展に尽くした。1999年県指定無形文化財「琉球歌劇」保持者。

●**青野暉** テレビ映画監督。7月2日、胆のうがんのため死去。89歳。青島幸雄主演の連続ドラマ『意地悪ばあさん』など多くのテレビ作品の脚本・演出を手掛けた。

●**ニック・コルデロ** 米・俳優。7月5日、新型コロナ

ウイルスの合併症のため死去。41歳。『ウエイトレス』『ロック・オブ・エイジズ』など数多くのブロードウェイ・ミュージカルに出演。2014年には『ブロードウェイと銃弾』でトニー賞にノミネートされた。

●**エンニオ・モリコーネ** 伊・作曲家。7月6日、死去。91歳。映画『アンタッチャブル』『ニュー・シネマ・パラダイス』などで世界的に知られる。『ヘイトフル・エイト』で2016年米アカデミー賞、ゴールデン・グローブ賞の作曲賞を受賞。2003年のNHK大河ドラマ『武蔵 MUSASHI』(主演・市川新之助(当時))でも音楽を担当。2019年旭日小綬章。

●**吉川進** 元東映プロデューサー。7月10日、呼吸不全のため死去。84歳。『日本剣客伝』のほか、『人造人間キカイダー』『秘密戦隊ゴレンジャー』『宇宙刑事ギャバン』などを制作し、日本の特撮界の一時代を築いた。

●**ナヤ・リヴェラ** 米・俳優。7月12日、死去。33歳。ドラマ『glee/グリー』のサンタナ・ロベス役で人気を集めた。

●**森崎東** 映画監督。7月16日、脳梗塞のため死去。92歳。山田洋次と共に『男はつらいよ』第一作目の脚本を執筆。監督としての代表作は『喜劇 女は度胸』『時代屋の女房』『ペコロスの母に会いに行く』など。

●**ジジ・ジャンメル** 仏・バレリーナ。7月17日、死去。96歳。パリ・オペラ座・バレエ学校で学び、夫でありフランスを代表する振付家のローラン・プティ振付『カルメン』で一躍有名になり数々のバレエ作品に主演。また、ハリウッドにも進出し、1952年公開のミュージカル映画『アンデルセン物語』(ドーロ役)にも出演した。

●**三浦春馬** 俳優。7月18日、死去。30歳。幼いころから児童劇団に所属。NHK連続ドラマ小説『あぐり』でデビューし、『14才の母』『ブラッディ・マンデイ』(主演)、『大切なことはすべて君が教えてくれた』(主演)など数々のドラマに出演。『僕のいた時間』ではギャラクシー賞個人賞を受賞。映画でも数多くの作品に出演し、『恋空』で日本アカデミー賞新人俳優賞、『永遠の0』で日本アカデミー賞優秀助演男優賞を受賞している。一方、2009年には地球ゴージャスプロデュース公演『星の大地に降る涙』で初舞台を踏む。以降、『海盜セブン』『ZIPANG PUNK〜五右衛門ロックⅢ』『地獄のオルフェウス』『罪と罰』などに出演。2017年上演のミュージカル『キンキブーツ』では読売演劇大賞優秀男優賞、杉村春子賞を受賞。

●**田島栄** 劇作家。7月20日、死去。88歳。1956年に劇団前進座に入座し、30本以上の作品を残した。代表作に『法然』『法然と親鸞』『柳橋物語(脚色)』『さぶ(脚色)』『赤ひげ(脚色)』など。日本演劇協会会員。

●**山本寛斎** ファッションデザイナー。7月21日、急性骨髄性白血病のため死去。76歳。1971年にロンド

ンで日本人として初めてファッションショーを開催、歌舞伎の要素を取り入れた斬新なデザインで一躍世界の注目を集めた。デビッド・ボウイらの衣裳を手がけたほか、『KANSAI SUPER SHOW太陽の船』の監督・総指揮を務めるなどパフォーマンス・アーツ・イベントなどでも活躍した。

●**オリビア・デ・ハビランド** 英・俳優。7月26日、老衰のため死去。104歳。映画『風と共に去りぬ』でビアン・リー演じる主人公スカーレット・オハラに寄り添うメラニーを好演し、米アカデミー助演女優賞にノミネート。『女相続人』などでアカデミー賞主演女優賞を2度受賞している。

●**花柳秀** 日本舞踊家・花柳流花柳会理事長。7月29日、肺がんのため死去。87歳。長男は日本舞踊家の花柳基。

●**アラン・パーカー** 米・映画監督。7月31日、死去。76歳。映画『小さな恋のメロディ』の原作・脚本担当をきっかけに映画界入り。『ダウントOWN物語』で監督デビュー。代表作は『エビータ』『フェーム』『ミッドナイト・エクスプレス』『愛と哀しみの旅路』など多数。

●**河原崎次郎** 俳優。7月、心不全のため死去。79歳。劇団前進座の創始者・河原崎長十郎の次男。劇団俳優座に入り、舞台『マリアの首』『どん底』『女たちの忠臣蔵』などに出演。また大河ドラマや『水戸黄門』などの脇役としても活躍した。

【8月】

●**立石涼子** 俳優。8月2日、肺がんのため死去。68歳。文学座研究所を経て、1976年から2014年まで演劇集団円に所属、2015年からシス・カンパニーに移籍。数多くの舞台のほか、『北の国から』『3年B組金八先生』などテレビや映画でも活躍。『欲望という名の電車』『三人姉妹』など蜷川幸雄演出作品の常連で、04年には紀伊國屋演劇賞個人賞を受賞。最後の舞台は19年『罪と罰』(主演・三浦春馬)だった。

●**轟二郎** タレント・俳優。8月2日、大腸がんのため死去。65歳。バラエティ番組『びっくり日本新記録』でチャレンジボーイとして人気に。またドラマ『翔んだカップル』『春日局』『ねらわれた学園』『時をかける少女』などで俳優としても活躍した。

●**渡哲也** 俳優。8月10日、肺炎のため死去。78歳。1964年に日活入り。翌年、映画『あばれ騎士道』でデビューし、石原裕次郎、小林旭、穴戸錠に続くアクションスターとして活躍。71年に石原プロモーションに入社。『大都会』『西部警察』などの刑事ドラマシリーズでスケールの大きな演技を見せて人気を博した。歌手としても73年発売の歌曲曲『くちなしの花』でミリオンセラーを記録。石原裕次郎死去後の87年から2011年まで石原プロ社長を務めた。96年には唯一の舞台

公演『渡哲也特別記念公演 信長』(大阪・新歌舞伎座)を行った。2005年紫綬褒章、2013年旭日小綬章。

●**森岡道夫** 映画プロデューサー。8月13日、死去。88歳。1953年に東宝に入社。映画『父ちゃんのポーが聞こえる』(71年)、『華麗なる一族』(74年)、『海峡』(82年)など携わった作品は多数。フリーとなり、82年『転校生』を製作、『はるか、ノスタルジー』など多くの大林宣彦作品に携わったほか、東京映画祭なども支えた。

●**安齊重男** 写真家。8月13日、心不全のため死去。81歳。イサム・ノグチら芸術家の肖像や国内外の展覧会を数多く撮影。建替えのため休場する歌舞伎座の姿をとどめおく写真集『歌舞伎座』の撮影を行った。

●**桂千穂** 脚本家・映画評論家。8月13日、老衰のため死去。90歳。寺山修司などに師事し、大林宣彦監督作品『あした』『時をかける少女』などの脚本を手掛けた。日本シナリオ協会の理事を歴任した。

●**宮内淳** 俳優。8月14日、直腸がんのため死去。70歳。文学座演劇研究所を卒業後、ドラマ『太陽にほえろ』田口刑事(ボン)役で俳優デビュー。『あさひが丘の大統領』などドラマや映画で活躍。1982年に「影絵劇団かし樹」を設立しテレビや国内外で影絵劇の上演を行った。

●**岩本多代** 俳優。8月17日、虚血性心疾患(推定)のため死去。80歳。高校卒業後、俳優座養成所に入所。劇団新人会などに所属し、舞台『王将』『濡つくし』『時代屋の女房』、朗読劇『この子たちの夏』『夏の雲は忘れない』などに出演。また多くのドラマや映画にも出演した。

●**ベン・クロス** 英・俳優。8月18日、死去。72歳。英国王立演劇学校を入学後、数々の舞台に出演。米アカデミー賞4部門を受賞した映画『炎のランナー』に主演。

●**山崎正和** 劇作家・評論家。8月19日、悪性中皮腫のため死去。86歳。京都大学大学院修了後、米・エール大学に留学。1963年、戯曲『世阿弥』で岸田国士戯曲賞を受賞。また、演劇、小説、詩など幅広い分野の評論も手がけ、73年には『陽外 闕う家長』で読売文学賞を受賞した。代表作に戯曲『オイディプス昇天』、『二十世紀』『GHETTO/ゲッター』、評論『柔らかい個人主義の誕生』など。関西大学教授、大阪大学教授、米コロンビア大学客員教授などを経て、00年から05年まで東亜大学学長を務める。07年から09年まで文部科学相の諮問機関である中央教育審議会の会長も務めた。06年文化功労者、18年文化勲章。

●**豊竹嶋太夫** 人形浄瑠璃文楽・太夫。8月20日、腎不全のため死去。88歳。1948年、故三代目豊竹呂太夫入門。二代豊竹呂太夫と名のる。54年に四代目豊竹呂太夫を襲名したが、芸に悩み翌年退座。68年に復帰し、八代目嶋太夫を襲名した。94年に『切場語り』

に。2002年には映画『Dolls(ドールズ)』(監督・北野武)にも出演した。94年に芸術選奨文部大臣賞を受賞。95年に紫綬褒章、08年に旭日小綬章を受け、15年に重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定された。16年2月の公演で現役を退き、後進の指導に当たっていた。

●**内海桂子** 漫才師。8月22日、多臓器不全のため死去。97歳。1950年に「内海桂子・好江」を結成。三味線のリズムにのせ、時事ネタを取り入れたある漫才で人気を博した。漫才コンビとして初の芸術選奨文部大臣賞を受賞。また映画やドラマにも数多く出演し、役者としても活躍した。89年に紫綬褒章、95年に勲四等宝冠章。

●**梅野泰靖** 俳優。8月25日、老衰のため死去。87歳。高校在学中に民藝少年劇公演の主役に抜擢され1954年に劇団民藝に入団。主な舞台は『イルクーツク物語』『山脈』『どん底』など。79年『亡命者』で第14回紀伊國屋演劇賞個人賞を受賞。また映画『幕末太陽傳』『男はつらいよ 虎次郎恋歌』のほか『ラジオの時間』『有頂天ホテル』大河ドラマ『新選組!』など三谷幸喜作品の常連としても知られていた。

●**三上祐三** 建築家。8月27日、老衰のため死去。89歳。Bunkamura オーチャードホールや洗足学園前田ホールなどの設計を手掛けた。

●**階戸瑠李** 俳優。8月28日、死去。31歳。ドラマ『半沢直樹』に出演したほか、『蒲田行進曲』『嫌われ松子の一生』『熱海殺人事件〜友よ、いま君は風に吹かれて』など小劇場公演にも多数主演した。

●**岸部四郎** 俳優・タレント。8月28日、拡張型心筋症による急性心不全のため死去。71歳。1969年にグループサウンズ「ザ・タイガース」に加入。解散後、俳優や司会者として活躍。ドラマ『西遊記』の沙悟淨役で知られた。

【9月】

●**ロナルド・ハーウッド** 英・劇作家。9月8日、死去。85歳。英・王立演劇学校で学んだ後、1953年からドナルド・ウォルフイットのドレッサー(衣裳係付き人)を務め、この経験を基に舞台『ドレッサー』を執筆。英国初演後、1981年に米国でも上演され200公演ものロングラン公演となった。その他の舞台作品は『コラボレーション』『Taking Sides—それぞれの旋律』など。また、2002年の映画『戦場のピアニスト』でロマン・ポランスキーと共にアカデミー脚色賞を受賞。2012年の映画『カルテット! 人生のオペラハウス』では原作・脚色を担当。

●**ダイアナ・リグ** 俳優。9月10日、死去。82歳。英・テレビシリーズ『ザ・アベンジャーズ(邦題:おしやれ探偵)』で人気を集め、映画『女王陛下の007』

でボンドガールを務めた。一方、英・米両国で『ヴァージニアウルフなんか怖くない』『フォーリーズ』など数々の舞台に出演。1994年の舞台『メディア』で第48回トニー賞演劇主演女優賞を受賞。演劇などでの長年の功績を称え、88年大英帝国勲章CBE勲章、94年には男性のナイトに相当する大英帝国デイムの称号を授与された。

●**芦名 星** 俳優。9月14日、死去。36歳。ドラマ『相棒』『テセウスの船』、大河ドラマ『八重の桜』など数多くのドラマ・映画に出演。また、舞台『ラブ・レターズ』『メリッサ役のほか、『笑う巨塔』『芝浦ブラウザー』『私の頭の中の消しゴム』などでヒロイン役を演じた。

●**斎藤洋介** 俳優。9月19日、咽頭がんのため死去。69歳。明治大学の落語研究会で三宅裕司と出会い、卒業後に旗揚げした「劇団スーパー・エキセントリック・シアター」の名付け親になる。NHK『男たちの旅路』でドラマデビュー。その後、数多くのドラマや映画などで名脇役として活躍。『SMAP×SMAP』などのバラエティー番組でも人気を博した。また舞台『第十七捕虜収容所』『十二人の怒れる男たち』『ユーミン×vo 1.3 朝陽の中で微笑んで』にも出演し、存在感ある演技をみせていた。

●**藤木孝** 俳優。9月20日、死去。80歳。1959年にロカビリー歌手としてデビュー。『レージィ・ギター』『踊れツイスト』『ツイストNo.1』などヒットを連発。62年に歌手を引退。その後、文学座研究生を経て、劇団樺、劇団昂に所属。翻訳劇や和物のストレート・プレイからミュージカルまで幅広いジャンルの舞台上で活躍し、86年に『ロッキー・ホラー・ショー』（フランケン・ファーター）『ブラック・コメディ』（ハロルド・ゴリンジ）で第12回菊田一夫演劇賞、2003年に劇団昂公演『ナインゲールではなく』で紀伊國屋演劇賞個人賞を受賞した。

●**マイケル・ロンズデール** 仏・俳優。9月21日、死去。89歳。映画『007 ムーンレイカー』『薔薇の名前』『ジャッキーの日』などの名画や舞台に出演。また舞台演出家としても活躍した。

●**ジュリエット・グレコ** 仏・歌手。9月23日、死去。93歳。戦後フランスを代表するシャンソン歌手。『枯葉』『パリの空の下』など哀愁を帯びた歌を得意とした。また女優としても活躍し、詩人・コクトーが監督した映画『オルフェ』や、『悲しみよこんにちは』など1950～60年代に多くの作品に出演した。

●**藤田敏雄** 劇作家。9月24日、心不全のため死去。92歳。創作ミュージカルの脚本・作詞、演出に携わり『おれたちは天使じゃない』『歌麿』など数多くの作品を制作。日本の創作ミュージカルの草分け的存在として活躍した。また作詞家としてザ・ブロードサイド・フォーの『若者たち』『希望』『約束』などのヒット曲も手が

がけた。

●**尾上菊十郎** 歌舞伎俳優。9月24日、慢性心不全のため死去。88歳。六代目尾上菊五郎に入門し、1968年に四代目尾上菊十郎を襲名。“菊五郎劇団”の『髪結新三』で着売といえはこの人で、粋の良い呼び声で人気を集めた。立ち回りの立師の名人で、指導者としても功績は大きかった。

●**須永克彦** 俳優・劇作家・演出家。9月25日、胆のう炎のため死去。80歳。高校卒業後、神戸小劇場（北島演劇研究所）を経て劇団道化座に入団。以降、演出は170作品、出演は200作品を超える。代表作は、『カンカン人生』『幸福』など。また東宝ミュージカル『マイ・フェア・レディ』、つかこうへい事務所『熱海殺人事件』などの外部出演や、テレビドラマなどへも出演。また「アジア演劇祭in関西」の実現にも尽力した。元・兵庫県劇団協議会代表。1997年神戸市文化賞、2003年兵庫県文化賞。

●**花柳壽麿** 日本舞踊家・花柳流四世宗家家元。9月26日、肺腺がんのため死去。89歳。1967年、五代目花柳芳次郎を襲名。2007年に四代目花柳春輔を襲名して宗家家元を継承。日本舞踊家として活躍する一方で、俳優として東宝歌舞伎や舞台、ドラマなどに出演したほか、振付家・演出家としても活躍。宝塚歌劇の日本物作品の振付を数多く手がけ、100周年記念式典の祝舞の振付も担当した。国際エミー賞、イタリア賞など受賞歴も数多く、2006年には旭日小綬章を受章。2011年に日本芸術院会員に選ばれている。日本演劇協会会員・元理事。

●**竹内結子** 俳優。9月27日、死去。40歳。NHK連続ドラマ『あすか』や『ランチの女王』『ストロベリーナイト』など数々のドラマに主演。また映画『黄泉がえり』『いま、会いにゆきます』などにも主演。食品や化粧品などの多くのCMにも出演した。2014年に上演された舞台『君となら』（作・演出＝三谷幸喜）で主演を務めた。

●**富田耕生** 声優。9月27日、脳卒中のため死去。84歳。アニメ『ドラえもん』で初代の声を務めたほか、『平成天才バカボン』『名探偵コナン』などで活躍した。

【10月】

●**トーマス・ジェファーソン・バード** 米・俳優。10月3日、死去。70歳。映画『クロッカーズ』『シャイラク』など数々のスパイク・リー作品へ出演。また、初のブロードウェイ出演作となった舞台『Ma Rainey's Black Bottom』でトニー賞最優秀主演男優賞（演劇部門）にノミネートされた。

●**高田賢三** ファッションデザイナー。10月4日、新型コロナウイルスによる感染症のため死去。81歳。世界的ブランド「KENZO」を立ち上げて人気を集め、

イブ・サンローランなどとともにパリコレのトップデザイナーとして活躍した。一方で、能やオペラの衣裳デザインも手がけた。1999年紫綬褒章を受章。

●**筒美京平** 作曲家。10月7日、誤嚥性肺炎のため死去。80歳。レコード会社勤務を経て作曲家に。『ブルーライト・ヨコハマ』『また逢う日まで』『木綿のハンカチーフ』『魅せられて』『ギンギラギンにさりげなく』『仮面舞踏会』など代表曲は多数。昭和の歌謡曲黄金期を担った。またテレビアニメ『サザエさん』『怪物くん』などのアニメ主題歌やドラマ主題歌も数多く手がけた。また『ロック・ミュージカル ハムレット』(桑名正博、岩崎宏美ほか)『ミュージカル アンネの日記』(小野寺昭、安奈淳、伊藤つかさほか)など舞台の作曲も手がけた。2003年、紫綬褒章を受章。

●**近藤建吾** 四季株式会社取締役(技術・劇場担当)。10月8日、急性大動脈解離により死去。53歳。1995年に劇団四季に入団。舞台監督として『アイダ』『ウィキッド』などを担当。『リトル・マーメイド』では日本初演の舞台監督として日本版演出の開発にも携わった。

●**小泉まち子** 俳優。10月11日、胃がんのため死去。84歳。1961年に劇団新派に入団。72年に幹部昇進。三味線を始め芸達者で知られ、『歌行燈』うどんや女房、『明治一代女』お豊、『じゅんさいはん』おまつなど、市井の女の表現に練達の味わいを見せた。

●**森川正太** 俳優。10月12日、胃がんのため死去。67歳。子役としてデビュー。その後、ドラマ『おれは男だ!』『俺たちの旅』など70年代の青春ドラマで活躍。2000年代に入り「劇団ケ・セラ・セラ」を旗揚げ。舞台公演を精力的に行っていた。

●**コンチャータ・フェレル** 米・俳優。10月12日、心疾患のため死去。77歳。1970年代から舞台や映画、テレビなど幅広く活躍。映画『ミスティック・ピザ』『シザーハンズ』『エリン・ブロコピッチ』など。オフ・ブロードウェイの舞台『The Sea Horse』でドラマ・デスク・アワードとオペラ賞を受賞している。

●**芦沢俊郎** 脚本家。10月20日、肺梗塞のため死去。90歳。松竹を経てフリーに。ドラマ『水戸黄門』『大岡越前』、アニメ『まんが日本昔ばなし』など数多くの脚本を手掛けた。元日本シナリオ作家協会理事。

●**大城立裕** 作家。10月27日、老衰のため死去。95歳。本土復帰前の1967年、米兵による少女暴行事件を題材にした『カクテル・パーティー』で、沖縄の作家で初めての芥川賞を受賞。そのほか『まぼろしの祖国』『日の果てから』(平林たい子文学賞)『レールの向こう』(川端康成文学賞)など。一方で伝統芸能「組踊」の継承発展のため「国立劇場おきなわ」の活動にも協力。開館を記念する新作『真珠道新を執筆。これまでになかった喜劇や、沖縄戦を描く組踊の新作も執筆した。2010

年、日本演劇協会表彰の演劇功労者を受章。日本演劇協会会員。

●**竹柴源一** 歌舞伎狂言作者。10月28日、肺がんのため死去。67歳。新劇の舞台監督を経て、1982年に歌舞伎界入り。歌舞伎狂言作者として数々の舞台を手がける一方で、子供歌舞伎の活動などに尽力した。

●**佐藤義和** 元テレビ・プロデューサー。10月28日、肺がんのため死去。72歳。フジボニーを経て1980年にフジテレビに移籍し、プロデューサーとしてバラエティー番組で活躍。『オレたちひょうきん族』『笑っていいとも』などを手がけた。

●**江佐衆一** 作家。10月29日、肺腺がんのため死去。86歳。1960年に短編『背』で作家デビューし、95年『黄落』でBunkamuraドゥマゴ文学賞を受賞しベストセラーに。テレビドラマのほか、劇団民藝で舞台化された。

●**ショーン・コネリー** 英・俳優。10月、死去。90歳。映画『007』シリーズで初代ジェームス・ボンド役として主演し、世界的な人気に。1987年『アンタッチャブル』の警官役で米アカデミー賞助演男優賞、英ゴールデングローブ賞助演男優賞を受賞。その他『史上最大の作戦』『ロビンとマリアン』『薔薇の名前』『レッド・オクトーバーを追え』など出演作は多数。一方で98年にブロードウェイで舞台『Art』を製作、トニー賞演劇作品賞を受賞した。

●**関谷敏昭** 舞台美術家。10月、死去。宝塚歌劇団に入団。代表作に『国境のない地図』『花は花なり』『ベルサイユのばら』『花舞う長安』『長崎しぐれ坂』『ファントム』『WELCOME TO TAKARAZUKA—雪と月と花と—』など多数。日本演劇協会会員。

【11月】

●**仙田容子** 日本舞踊家。11月5日、老衰のため死去。91歳。1961年に仙田流を創流。古典舞踊のほか創作舞踊にも力を注いだ。2008年文化庁長官表彰。

●**坂田藤十郎** 歌舞伎俳優。11月12日、老衰のため死去。88歳。1941年に二代目中村扇雀を名乗り初舞台。53年に250年ぶりに復活上演された『曾根崎心中』で父・二代目中村扇雀の相手役として遊女・お初を演じて話題に。お初は生涯の当たり役となり、84歳になるまで通算1400回以上演じた。90年に三代目中村扇太郎を襲名。2005年には四代目坂田藤十郎を襲名し、上方歌舞伎の大名跡を231年ぶりに復活させた。深い解釈に基づく確かな演技で『冥途の飛脚』忠兵衛、『心中天網島』治兵衛、『伽羅先代萩』政岡など、立役から女形まで幅広く演じた。また1981年には近松門左衛門作品に取り組み「近松座」を結成して国内外で公演、上方歌舞伎の再興に情熱を注いだ。94年に人間国宝に認定、2009年文化勲章。2012年から日本俳優協会会長

を務めていた。日本演劇協会会員。

●**窪寺昭** 俳優。11月13日、死去。43歳。「仮面ライダー」シリーズなど数多くのテレビドラマに出演。一方で、喜劇『おそ松さん』『刀剣乱舞』、ミュージカル『薄桜鬼』『戦国BASARA』など数多くの舞台でも活躍した。

●**岡田裕介** 東映グループ会長。11月18日、急性大動脈解離のため死去。71歳。俳優として映画デビューした後、野村芳太郎『しなの川』や深作欣二『火宅の人』などに出演。岡本喜八『呐喊』では主演とプロデューサーを務める。『動乱』(主演：高倉健、吉永小百合)を製作し、1988年に東映に入社。『華の乱』『北の零年』など多くの作品をプロデュースした。

●**宮内美樹** 観世流シテ方。11月20日、がんのため死去。49歳。旧科学技術庁官僚から観世流橋岡会門下となり女性能楽師に。能楽師として活躍する一方で都内で能楽講座を開くなど能楽の魅力の普及に努めた。

●**織田正吉** 演芸作家。11月20日、肝臓がんのため死去。88歳。演芸作家として横山やすし・きよしや桂枝雀らに台本を提供したほか、演芸番組の構成数多く手がけた。

●**幸田弘子** 俳優・舞台朗読家。11月24日、くも膜下出血のため死去。88歳。1953年にNHK東京放送劇団に入り舞台などで活躍。77年「幸田弘子の会」で樋口一葉を中心に泉鏡花や太宰治などの作品を朗読する独自の表現を確立した。96年紫綬褒章、2003年旭日小褒章。

●**船場太郎** 元喜劇俳優。11月27日、死去。81歳。1965年に吉本新喜劇に入団。二枚目役で人気を集めた。91年から大阪市議を務め、2003～04年に議長も務めた。

●**デビッド・ブラウズ** 英・俳優。11月28日、死去。85歳。映画「スターウォーズ」シリーズの『新たなる希望』から『ジェダイの帰還』までの初期3部作でダース・ベイダーを演じた。

【12月】

●**金城茉奈** 女優。12月1日、死去。24歳。映画『けんじ君の春』、ドラマ『騎士竜戦隊リュウソウジャー』などで活躍。また『ラスボスのお城の前で』『伯爵のおるすばん』など多くの舞台でも活躍した。

●**一龍齋貞水** 12月3日、肺がんによる肺炎のため死去。81歳。1955年に五代目一龍齋貞丈に入門。66年真打ち昇進とともに六代目貞水を襲名。軍談物から世話物まで幅広い芸域は高く評価される一方、『四谷怪談』などに照明や音響を使った立体的な演出を取り入れた独自の感覚を盛り込み「怪談の貞水」と呼ばれ人気を集めた。2002年、講談界初の重要無形文化財保持者(人間国宝)に選ばれた。

●**アンドレ・ギャニオン** 加・作曲家。12月3日、死

去。84歳。1960年代にソロ・デビュー後、作曲家としても活動。代表作『めぐり逢い』は、イーギーリスニングの代表曲として世界的にヒットしたほか、日本のドラマ『Age,35 恋しくて』にも使用された。

●**佐久田脩** 俳優・声優。12月4日、すい臓がんのため死去。62歳。子役として『仮面ライダー』などに出演。1975年NHK連続テレビ小説『水色の時』に大竹しのぶの弟役で出演。また77年にはドラマ『野菊の墓』で山口百恵の相手役を務めたほか、84年『星雲仮面マシンマン』に主演した。

●**小松政夫** コメディアン・俳優。12月7日、肝細胞がんのため死去。78歳。植木等の付き人を経たあと、バラエティ番組『シャボン玉ホリデー』で芸能界デビュー。伊藤四朗らと共に共演した番組で「しらけ鳥音頭」「電線音頭」がヒットし人気を集めた。また俳優として映画『駅 STATION』やドラマなどに出演。舞台では、一人芝居のほか、『漂流劇 ひょっこりひょうたん島』『土佐堀川』『めんたいびりり〜未来永劫編』などに出演した。

●**浅香光代** 俳優。12月13日、すい臓がんのため死去。92歳。「浅香光代一座」を立ち上げ、昭和30年代に「女剣劇」で人気を集めて一時代を築き、その後も演劇界にとどまらず映画やテレビに出演し、幅広く活躍した。2009年旭日双光章を受章。

●**西川右近** 日本舞踊西川流総師。12月12日、急性心不全のため死去。81歳。二代目西川鯉三郎の長男で3歳で初舞台。1983年に三世家元継承、2014年に総師を名乗る。2001年文部科学大臣表彰。2015年中日文化賞。

●**小谷承靖** 映画監督。12月13日、虚血性心不全のため死去。84歳。1960年に東宝に入社。「若大将」シリーズなどを監督したほか、ドラマなども手がけた。

●**出口典雄** 演出家。12月16日、誤嚥性肺炎のため死去。80歳。文学座、劇団四季を経て、1975年に劇団シェイクスピア・シアターを旗揚げ。渋谷の小劇場ジャン・ジャンを拠点に上演を続けた。78年に第13回伊国屋演劇賞個人賞を受賞。81年、『アントニーとクレオパトラ』の上演をもってシェイクスピア全37作品の上演を達成。一人の演出家による全作品の演出・上演は世界初だった。

●**堅田喜三久** 長明鳴物奏者。12月17日、虚血性心不全のため死去。85歳。歌舞伎長唄囃子の望月流家元・九代目望月太左衛門の次男で、伯父の三代目堅田喜惣治に師事し1953年に三代目喜三久を襲名。現代音楽やジャズの演奏にも参加したほか、米国の大学で囃子の講師を務めるなど幅広く活躍した。99年重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定された。

●**宅間秋史** 元フジテレビプロデューサー。12月18日、食道がんのため死去。65歳。ドラマ『キモチイ

恋したい!』『もう誰も愛さない』『29歳のクリスマス』『ヴァンサンカン・結婚』などを手がけた。

●**ピーター・ラumont** 米・美術監督、プロダクションデザイナー。12月18日、死去。91歳。美術監督などで映画『007 ゴールドフィンガー』からシリーズ25作品中18作品に携わる。また、1972年の映画『探偵スルース』、71年のミュージカル映画『屋根の上のバイオリン弾き』で美術監督などを務め、1997年『タイタニック』ではアカデミー美術賞を受賞した。

●**中村泰士** 作詞・作曲家。12月20日、肝臓がんのため死去。81歳。歌手としてデビューした後、ちあきなおみ「喝采」、細川たかし「北酒場」、桜田淳子「わたしの青い鳥」など数多くの作品を手がけた。

●**なかにし礼** 作詞家・作家。12月23日、心筋梗塞のため死去。82歳。作詞家として、奥村チヨ「恋の奴隷」、黛ジュン「天使の誘惑」、細川たかし「北酒場」など、昭和を代表する多くのヒット曲を生み出した。また2000年には小説『長崎ぶらぶら節』で直木賞を受賞。一方で、『長崎ぶらぶら節(作)』『てるてる坊主の照子さん(原作・演出)』『モーツァルトの手紙(台本・演出)』、ミュージカル『キス・ミー・ケイト(訳詩)』『女学者たち(脚本・作詞)』『ファニーガール(訳詩)』『カルメン(脚本・訳詩)』などの舞台にも数多く携わった。

●**千賀拓夫** 俳優。12月19日、老衰のため死去。82歳。舞台芸術学院卒業後、劇団自由劇場を経て1964年青年劇場に入団。出演作に『喜劇キュリー夫人』『死と乙女』『愛が聞こえます』『真珠の首飾り』など多数。

●**ピエール・カルダン** 仏・ファッションデザイナー。12月29日、死去。98歳。オートクチュール(高級注文服)からいち早くプレタポルテ(高級既製服)に進出、限られた人のためだったファッションを大衆化し、世界的なブランドを築いた。一方、パリに劇場「エスパス・ピエール・カルダン」を建設。マレーネ・デートリッヒやボブ・ウイソソンなど多くの音楽家や役者などを輩出。また1946年公開の映画『美女と野獣』(監督:ジャン・コクトー)では衣裳を手がけた。日本のファッション界にも大きな影響を与え、1991年勲二等瑞宝章を受章。92年にはデザイナーとして初めてフランス学士院の芸術アカデミー会員に選ばれた。

●**綿引勝彦** 俳優。12月30日、すい臓がんのため死去。75歳。日本大学芸術学部を中退後、劇団民藝に入団。多くの舞台に出演し、1985年の退団後は舞台だけでなく、映画「極道の妻たち」シリーズや時代劇「鬼平犯科帳」「必殺」シリーズのほか大河ドラマなど、数多くの映画やドラマで活躍した。ドラマ「天までとどけ」シリーズでは、新型コロナウイルスによる肺炎で死去した岡江久美子とともに10年にわたって夫婦役を演じ人気を集めた。妻は俳優の榎山文枝。

●**ロベール・オッセン** 仏・俳優、演出家。12月31

日、死去。93歳。60年代の映画『アンジェリク』シリーズ出演で世界的に有名に。演出家としても活躍し、イザベル・アジャーニなどを育てたほか、競技場などを会場にした大規模な舞台を多数成功させた。また1982年の仏・テレビドラマ『レ・ミゼラブル』では監督も務めた。